



資料編



1 安城市文化振興計画策定審議会

1-1 安城市文化振興計画策定審議会規則

平成 31 年 3 月 27 日安城市教育委員会規則第 7 号

安城市文化振興計画策定審議会規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、安城市附属機関の設置に関する条例（平成 25 年安城市条例第 34 号）第 5 条の規定に基づき、安城市文化振興計画策定審議会（以下「審議会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第 2 条 審議会は、教育委員会の諮問に応じ、安城市附属機関の設置に関する条例別表に定めるその担任する事務について、意見を述べるものとする。

(会長及び副会長)

第 3 条 審議会に会長及び副会長を置く。

2 会長は、委員の互選によって定め、副会長は、委員のうちから会長が指名する。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 4 条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長は会議の議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第 5 条 会長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求めてその説明若しくは意見を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第 6 条 審議会の庶務は、生涯学習部文化振興課において処理する。

(委任)

第 7 条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が別に定める。

附 則

この規則は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

1-2 安城市文化振興計画策定審議会委員名簿

	選任理由	委員	備考
1	学識経験者	会長 黒澤 浩 南山大学教授	考古学・博物館学 学識経験者
2	学識経験者	林 健次郎 愛知県芸術劇場企画制作部長代理	芸術振興 学識経験者
3	地元有識者	川崎 みどり 安城市文化財保護委員	地元有識者
4	地元有識者	高山 忠土 安城市博物館協議会委員	地元有識者
5	地元有識者	副会長 丸山 今朝三 安城市民ギャラリー運営委員	地元有識者
6	市民団体代表	小林 啓子 安城ふるさとガイドボランティア	市民団体代表
7	市民団体代表	花井 玲子 安城音楽協会	市民団体代表
8	市民団体代表	小山 要子 安城文化協会副会長	市民団体代表
9	公募委員	鈴木 駿弥 桜井町下谷棒の手保存会代表	市民公募
10	公募委員	森本 留加 名古屋芸術大学学生	市民公募

* は女性。

1-3 策定経過

【令和元年度】

- 8月22日 教育員会で策定審議会委員の委嘱（任期 R1.9.1～R3.3.31）
- 9月26日 第1回策定審議会（諮問）
- 12月13日 文化芸術活動調査の調査開始
- 1月17日 eモニターアンケート（1月24日まで）
- 2月 2日 音楽協会・市民会館指定管理者ヒアリング
- 2月 9日 桜井町下谷棒の手保存会ヒアリング
- 2月11日 書家・堀内町のまつり囃子ヒアリング
- 2月12日 安城ふるさとガイドの会ヒアリング
- 2月14日 創作和太鼓演奏団体代表・楽学古文書会ヒアリング
- 2月15日 市民演劇祭出演団体ヒアリング・三河万歳保存会ヒアリング
- 2月22日 安城文化協会ヒアリング
- 2月27日 安城身障者福祉協会ヒアリング
- 3月 8日 第2回策定審議会

【令和2年度】

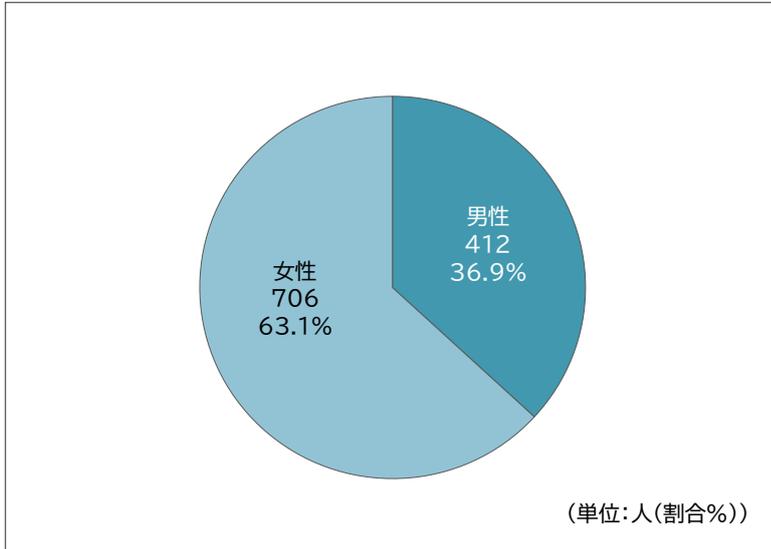
- 7月 4日 第3回策定審議会
- 7月10日 安城学園高等学校文化系部活動ヒアリング（吹奏楽部・合唱部・美術部・演劇部）
- 10月 3日 第4回策定審議会
- 12月24日 パブリックコメント（1月24日まで）
- 1月30日 第5回策定審議会（答申）
- 2月18日 教育委員会定例会（承認）

2 市民アンケート調査の概要

第 15 回 e モニターアンケート「安城市の歴史・文化・芸術について」

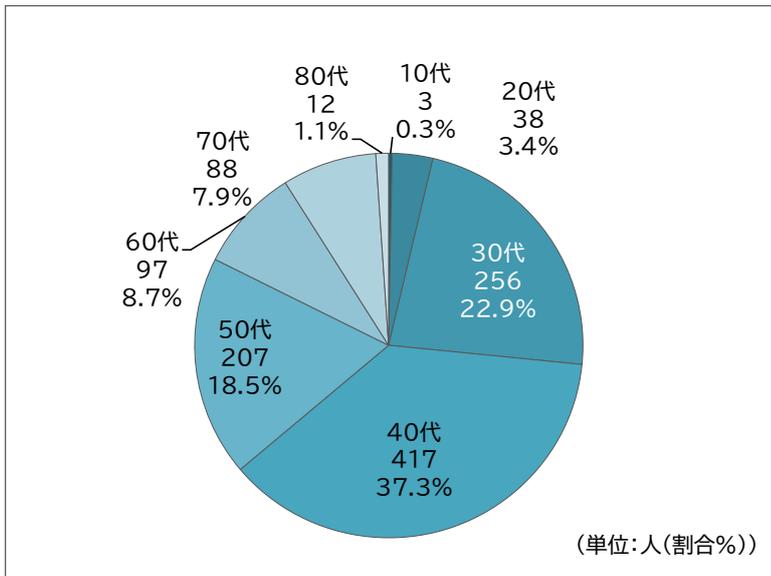
実施期間：令和 2 年 1 月 17 日～1 月 24 日 回答数:1,118 人 回答率 73.2%

① 回答者の属性



【性別】

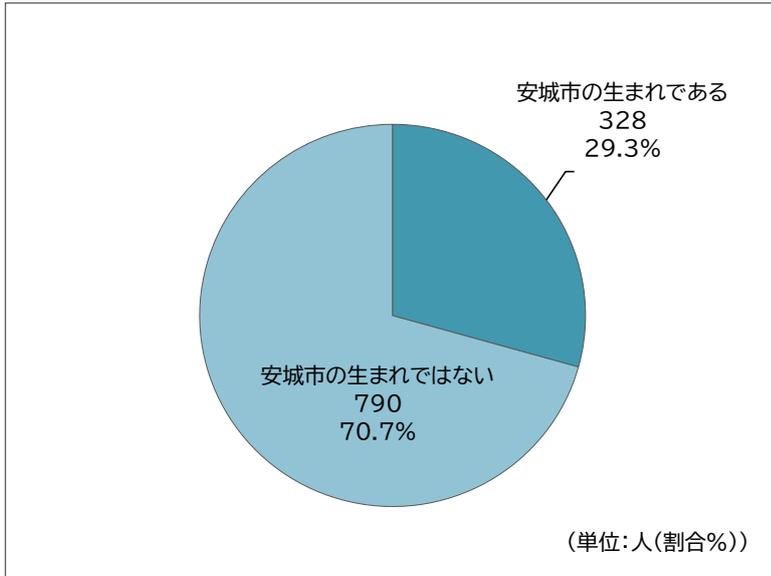
女性 63%、男性 37%と、女性が多く回答。



【世代】

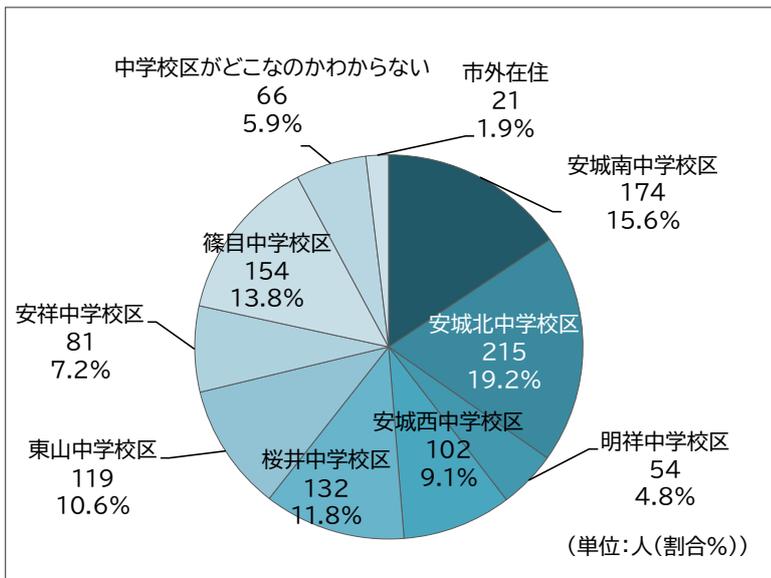
40代(37%)が最も多く、次いで30代(23%)、50代(19%)であり、10代、20代も加えると、50代以下の世代が8割以上を占めており、ネット環境と親和性の高いこれらの世代の回答が多くを占めている。

問1 出身地



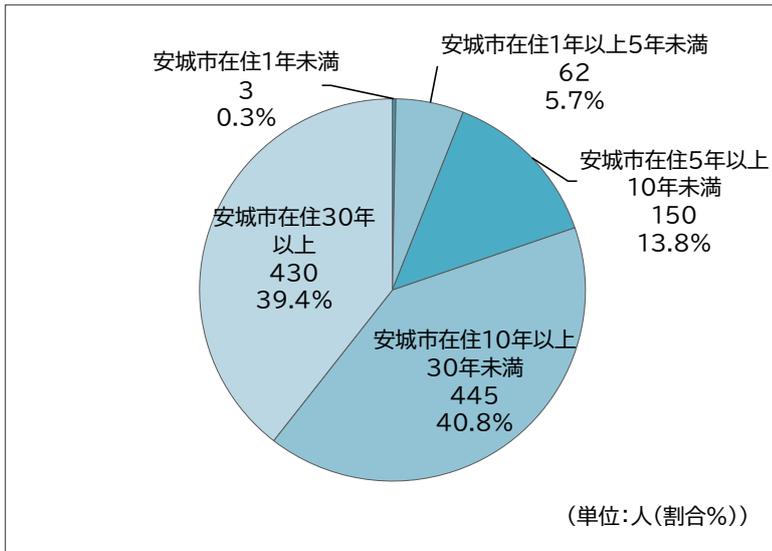
本市以外の生まれが71%を占める。
 安城を生まれながらのふるさととする市民は比較的少数であり、2/3 以上は他市町村から転入している。

問2 居住する中学校区



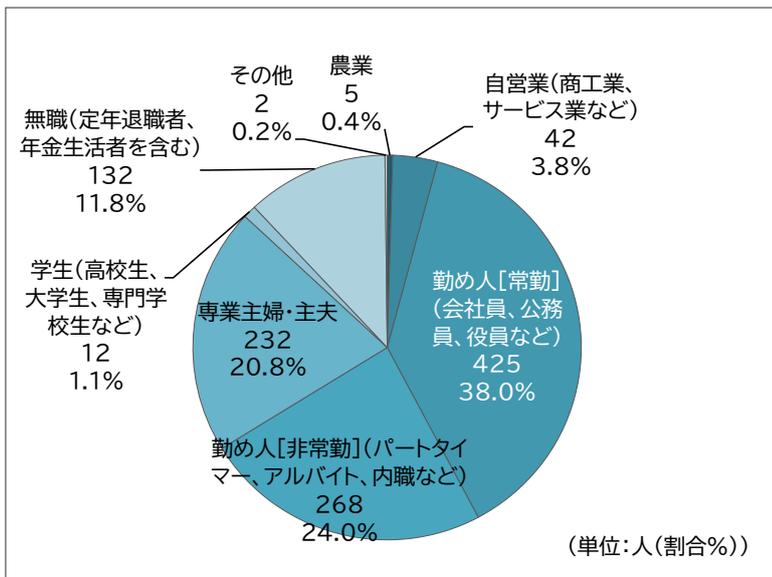
概ね中学校区別の人口比と類似した回答者数となっている。

問3 安城市の在住年数



市内在住年数は30年以上が39%、10年以上30年未満を加えると約8割を占めており、問1に見るとおり、安城出身者は少ないものの、安城を第2の故郷として回答者は多いものと考えられる。

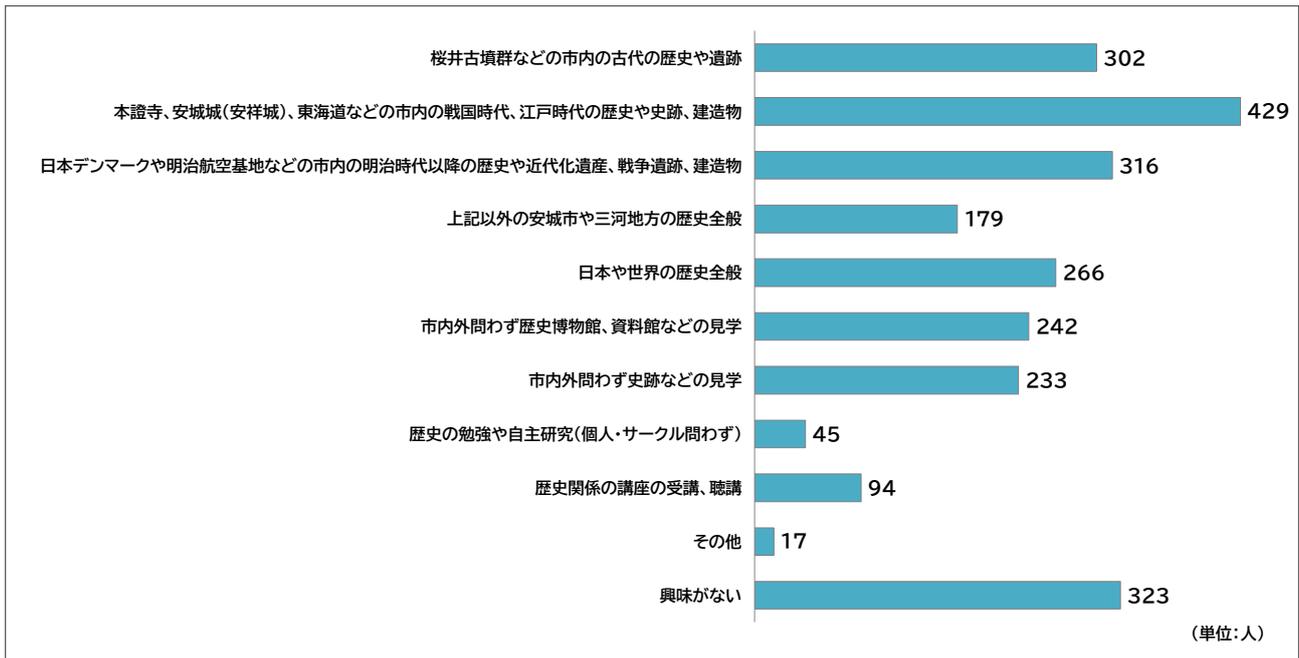
問4 職業



勤め人(常勤・非常勤)が62%を占め、次いで専業主婦・主夫21%。

② 歴史、文化芸術に対する意識

問 5 歴史に関することについて興味や関心があるもの（複数回答）



- ・「歴史に興味がない」という回答者は 323 人で、全体の 29%。
- ・歴史全般に関する興味、関心が高いが、特に本證寺などの江戸時代の歴史をはじめ、安城市、三河地域固有の歴史への関心が高い。
- ・「見学」への興味、関心が高い反面、「勉強」、「自主研究」「講座受講」といった、より能動的で掘り下げる行為への興味・関心は低く止まっている。

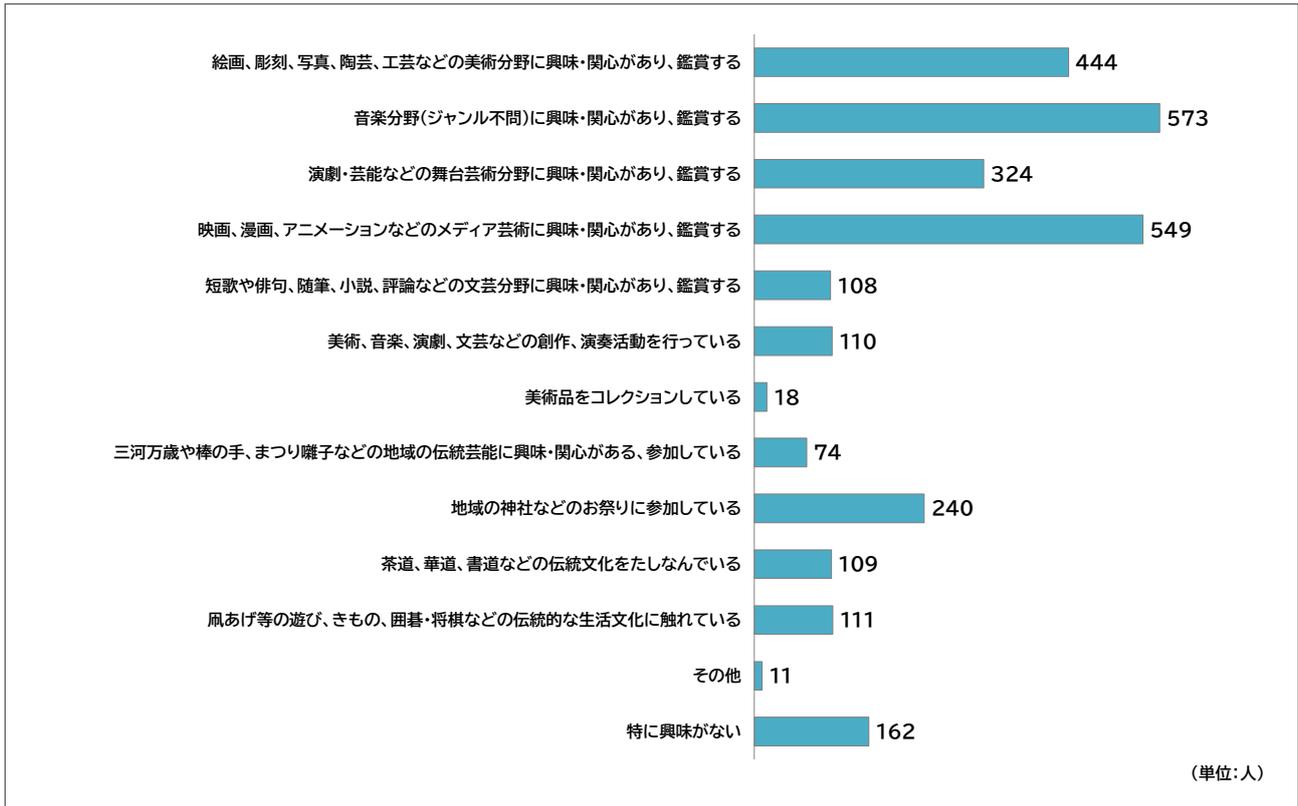
(クロス集計)

- ・性別に関して、「興味がない」という回答率は女性が高い傾向にある。
- ・世代に関しては、各世代とも興味、関心の対象は似た傾向にあるが、「興味がない」という回答率は若い世代ほど高い傾向が見られる。
- ・出身地に関しては大きな相違は見られない。
- ・居住地（中学校区）に関しては、概ね同様の傾向が見られるが、具体的な興味の対象については中学校区により違いが見られ、例えば桜井中学校区では「桜井古墳群」が最も高いなど、身近に感ずる対象が居住地により異なることが考えられる。
- ・職業に関しては、概ね似た傾向にあるが、「勤め人」「専業主婦・主夫」に関しては「興味がない」の回答率が若干高い傾向が見られる。

【その他意見（抜粋）】

- ・建築物 ・過去の地形や地震など ・明治用水 ・生活の中に引き継がれる歴史（街並み、祭、郷土料理など）
- ・お寺 ・戦国時代 ・苗字の歴史 ・安城市の土壌の今昔 ・市の航空写真変遷 ・伊勢湾台風や三河地震などの災害の歴史
- ・神楽 ・化石 ・今村の歴史 ・地名の成り立ち ・市町村の合併の歴史 ・戦争 ・古文書 など

問6 文化・芸術に関することについて該当するもの（複数回答）



- ・「特に興味がない」の回答は 14%に留まっており、多くの回答者は何らかの文化芸術に興味・関心を持っている。
- ・美術、音楽や舞台芸能、演劇、映画などの分野の鑑賞への関心は高い一方、実際に創作活動や伝統芸能活動へ参加している回答者は少ない。

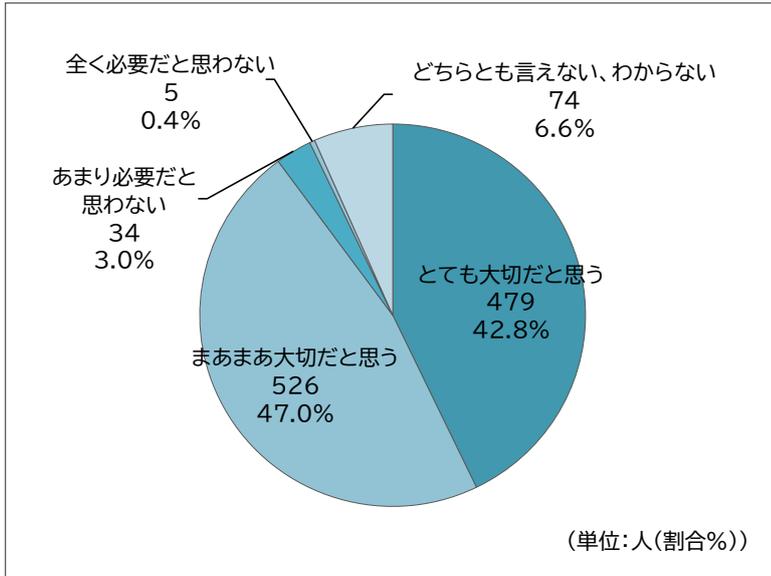
(クロス集計)

- ・性別、世代、出身地、居住地、職業ともに、概ね似た傾向にあり、顕著な違いは見られない。

【その他意見（抜粋）】

- ・特に興味がないわけではないが、文化芸術に触れる機会がない ・落語
- ・興味がないわけではないけど、歴史と思うと、あまり関心がない ・社寺仏閣や現代建築
- ・地域の歴史・文化（人・建物・土地） ・興味があるが、接する機会がない ・積極的には活動していない
- ・詩吟を習っています ・楽器を習っている など

問7 歴史を知る、文化・芸術に親しむことについての必要性

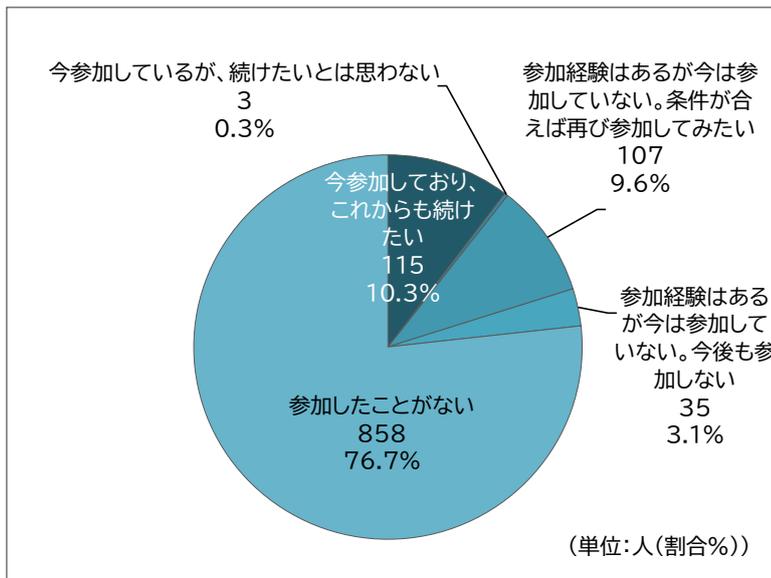


・「とても大切」「まあまあ大切」が 90%を占めており、歴史、文化芸術の重要性の認識は高い。

(クロス集計)

・性別、世代、出身地、居住地、職業ともに概ね似た傾向にあり、いずれの層においても文化芸術の重要性が認識されている。

問8 歴史、文化・芸術のサークル団体への参加状況



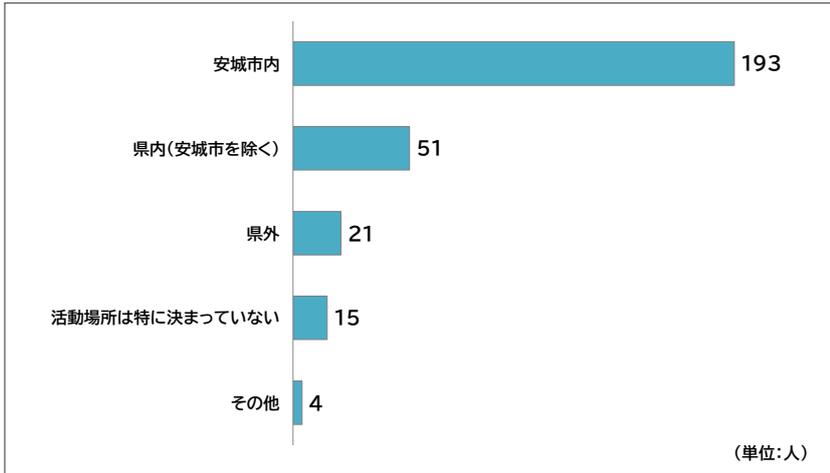
・「今参加している」と「参加経験がある」は 23%であり、このうち「現在も続けており、今後も継続意思を持つ」回答は 10%と半分弱。

・今は「参加していないが条件が合えば再び参加したい」回答が 10%。「参加したことがない」の回答の 77%とともに、文化芸術が重要と9割が考えていることから、潜在的参加需要がこの層に含まれているものと推察される。

(クロス集計)

・性別、世代、出身地、居住地、職業ともに、概ね似た傾向にあり、顕著な違いは見られない。

問 9 サークル団体の活動場所（サークルに参加している人、参加経験のある人（複数回答））



・問 8 でサークル団体に参加、もしくは参加経験がある回答者（260名）のうち、安城市内を活動場所とする（した）回答者は 74%。
 ・市外のサークルとしては、刈谷、知立、碧南など隣接市や名古屋などの県内が多い。

【その他意見（抜粋）】

「県内」(抜粋)

・刈谷市 ・知立市 ・名古屋市 ・碧南市 ・西尾市 ・岡崎市 ・豊田市 ・稲沢市

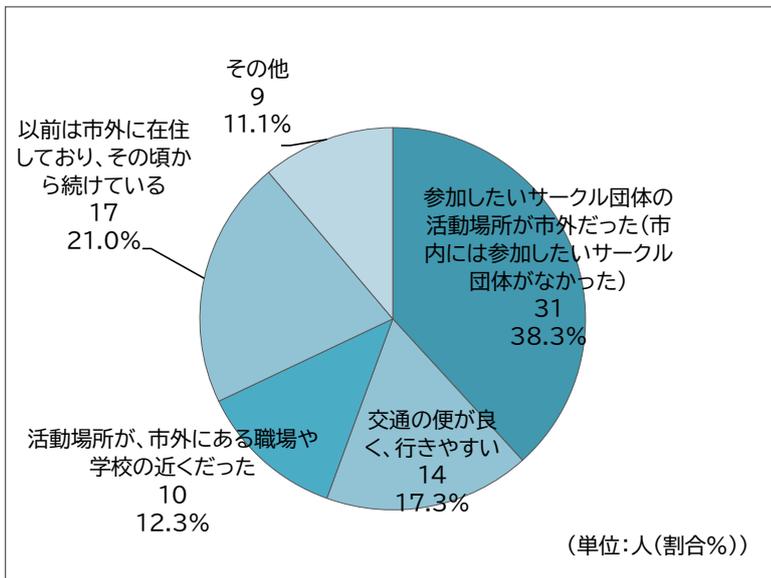
「県外」(抜粋)

・横浜市 ・三重県 ・岐阜県 ・東京都 ・広島県 ・兵庫県 ・埼玉県 ・富山県 ・静岡県

「その他」(抜粋)

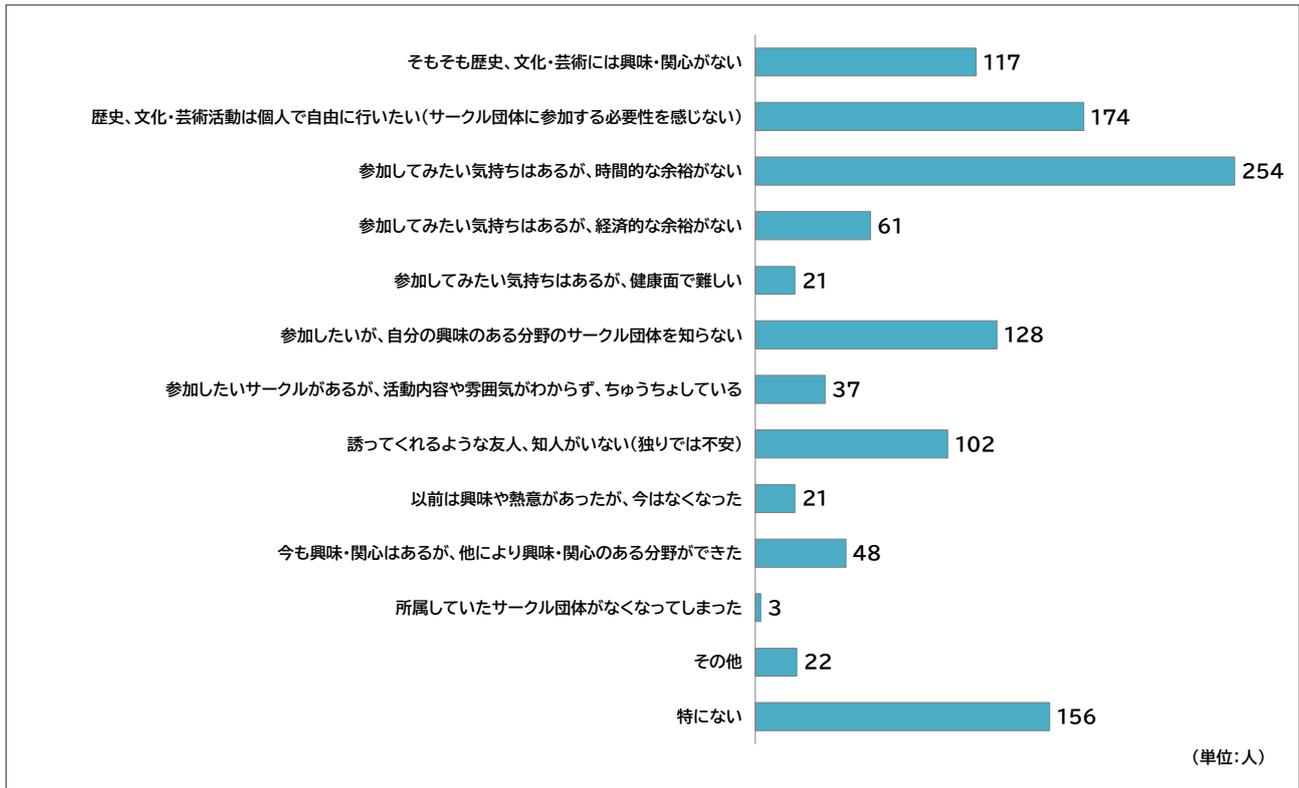
・日本全国 ・中国・上海 など

問 10 市外サークル団体への参加理由



・市外のサークル団体へ参加する理由として最も多いのは「参加したい団体が市内にない」が 38%と最も多い。一方、「交通の便がよく行きやすい」「活動場所が職場や学校に近い」という、位置条件による理由が合わせて 30%であり、活動場所への行きやすさより、活動内容を重視する回答が 8 ポイント高い。
 ・「市外在住時の団体にそのまま参加」は 21%。

問 11 サークルに参加しない（または参加しなくなった）理由（複数回答）

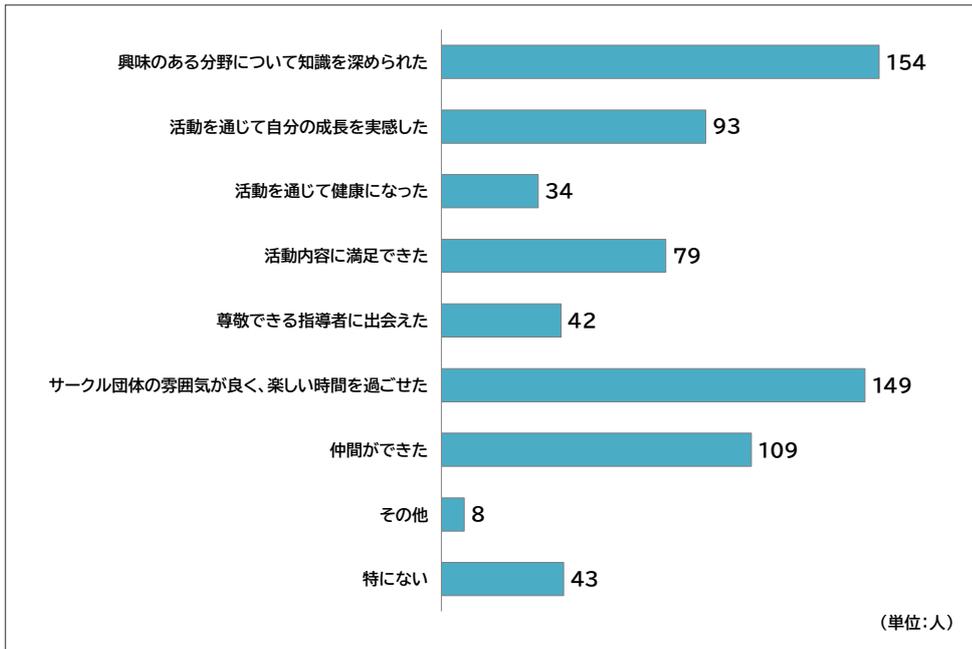


- ・問 8 でサークル団体に参加した経験がない回答者（858 名）のうち、「そもそも興味・関心がない」との回答者は 117 名（14%）。
- ・あえて団体に属さず、個人で自由に活動したいという意向も 174 名（20%）見られる。
- ・「参加意思はあるが時間的余裕がない」254 名（30%）、「経済的余裕がない」61 名（7%）、「健康面で難しい」21 名（2%）など、種々の制約から希望が叶えられないケースが見られる。
- ・「参加意思はあるが、サークル団体がわからない」128 名（15%）、「内容や雰囲気がわからない」37 名（4%）「誘ってくれる友人・知人がいない」102 名（12%）など、情報不足に起因して参加を躊躇しているケースも見られる。

【その他意見（抜粋）】

- ・大学を卒業したから ・サークル活動が苦手 ・一度入ると気軽に抜けられない
- ・興味の差や運営に対する温度差が生まれ人間関係が煩わしい ・すでに輪ができていてよそ者扱いする人がいる
- ・他と関わらず一人で楽しみたい ・時間・場所にこだわらず好きなことを好きなときにしたい
- ・ゆったりやらなかったり自由ではないから ・面倒 ・特に人と共に楽しまなくてもいいと思っている
- ・SNS で興味は共有できる ・好きな時に楽しめるインターネットなどで十分 ・印刷物で十分
- ・サークルがあることを知らなかった ・サークルがあることさえ知らなかった ・仕事や子育てなどで余裕がないため ・時間がない
- ・興味はあるが、安城が歴史上目立った活躍者、歴史的建造物がないため興味がない
- ・通いたい曜日時間が変わってしまった ・子供が小さいので、参加したいが、難しい ・遠い ・子育て など

問 12 サークルに参加してよかったと思う点（複数回答）

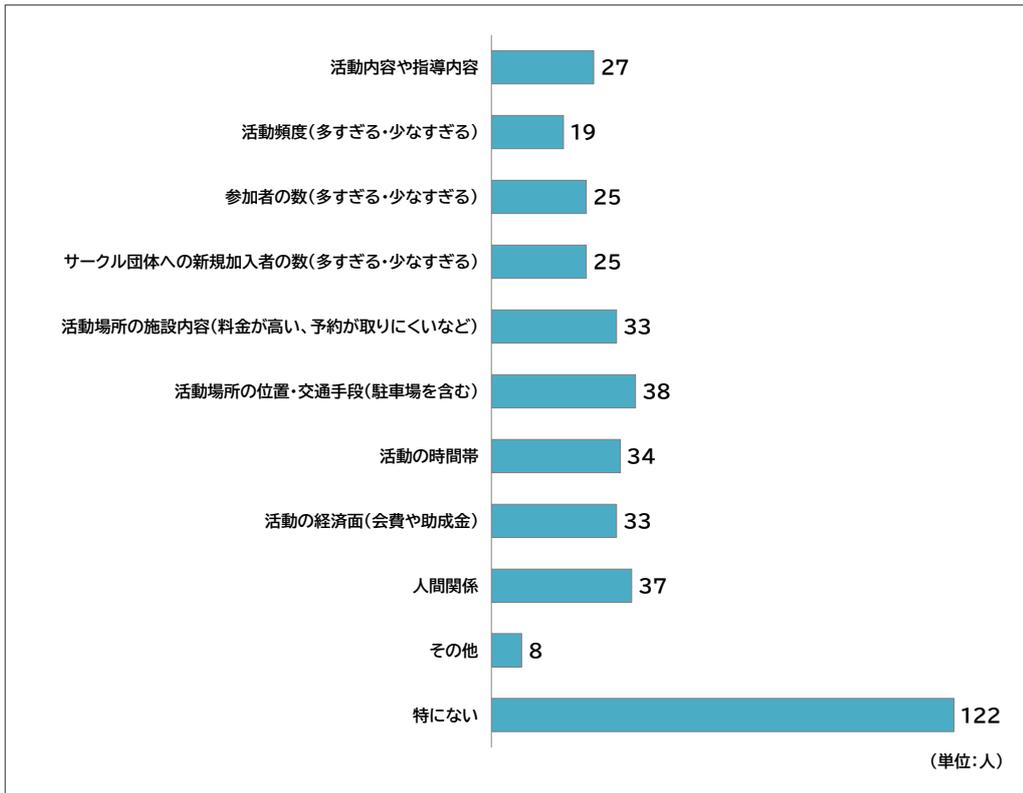


- ・問 8 でサークル団体に参加、もしくは参加経験がある回答者（260 名）のうち、「知識を深められた」154 名（59%）「自分の成長を感じた」93 名（36%）「健康になった」34 名（13%）など、自己実現や生活の質の向上につながる回答が多く見られる。
- ・「雰囲気が良く、楽しい」149 名（57%）「仲間ができた」109 名（42%）「尊敬できる指導者に出会えた」42 名（16%）など、他者とのつながりの充実を感じる回答も多く見られる。

【その他意見（抜粋）】

- ・音楽に触れることでリフレッシュでき、また、琉球とその他島の関係性、歴史なども教えてもらった
- ・勾玉作りに子供が参加しました ・経験して興味が持てればと思いました ・他では経験できないことができてとても感激した
- ・手持ちが増えました ・人や地域に役に立っている ・夫も参加するようになった など

問 13 サークル団体への不満点（複数回答）

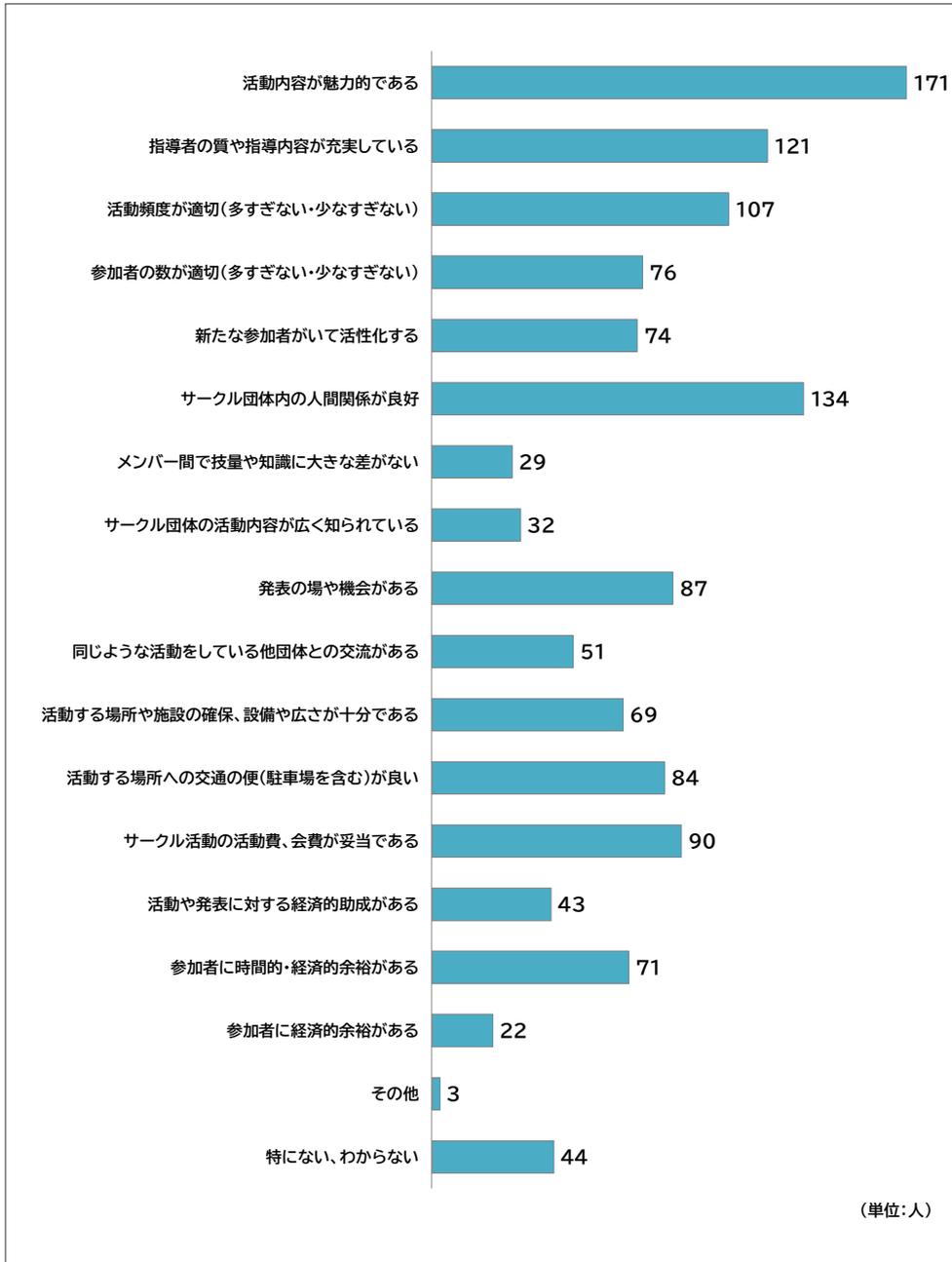


- ・問 8 でサークル団体に参加、もしくは参加経験がある回答者（260 名）のうち、特に不満を持たない回答者は 122 人（47%）。
- ・不満点については、「施設内容」、「場所・交通手段」など施設に関する事項、「活動内容」、「頻度」、「人数」、「活動時間帯」など、活動の内容と求めるニーズとの乖離の問題のほか、経済面、人間関係など、多岐に渡る。

【その他意見（抜粋）】

- ・自分があまり参加できない ・もっと早く多くの人に理解してもらおう事 ・チケットの販売ノルマがあった ・なかなか次につながらない
- ・後継者不足 ・引越した など

問 14 よりよいサークル団体の活動のために重要なこと（複数回答）

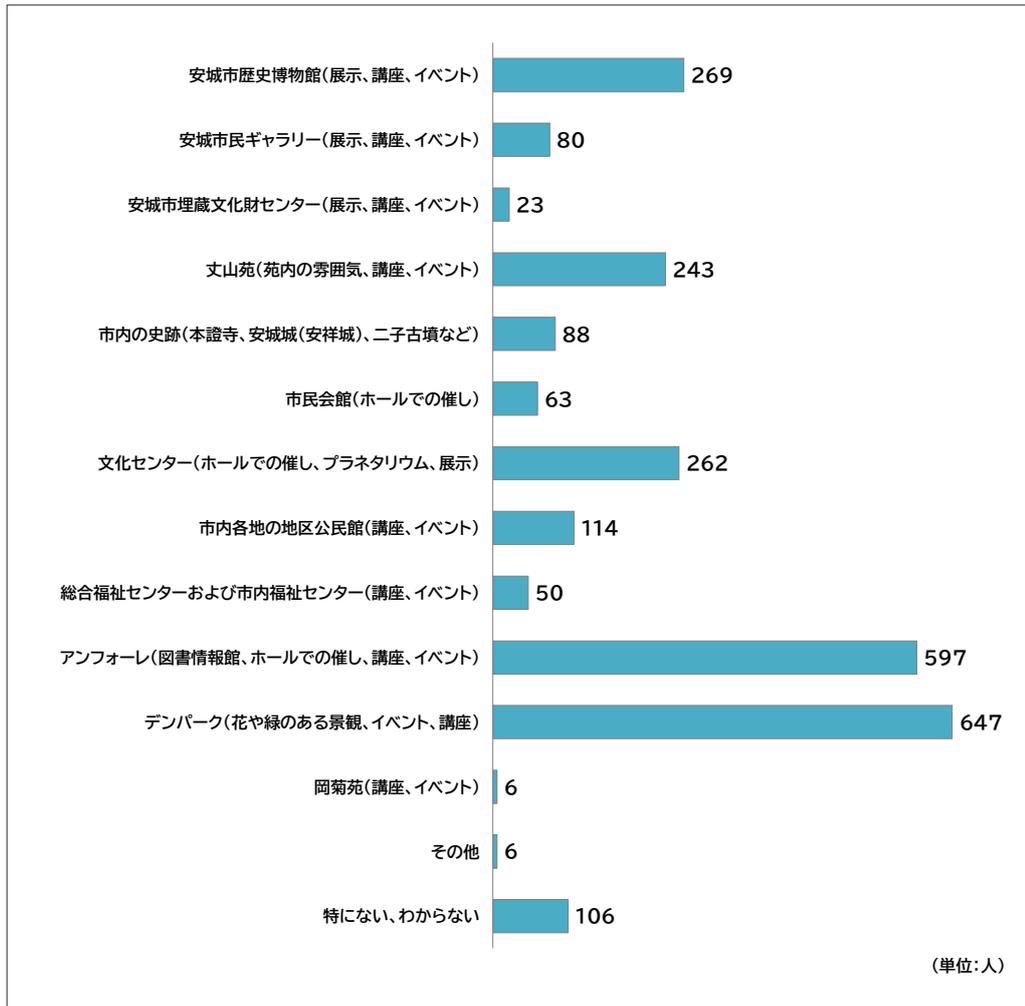


- ・よりよい団体、活動のニーズとして、最も多いのが「活動の魅力」の171人（全回答者に対して15%、参加経験者に対して66%）であり、これとともに、「指導の充実」、「適切な活動頻度」、「適切な参加者数」など、活動内容の質的充実や量的なニーズのマッチに関わる事項が重要と見られている。
- ・これについてニーズが高いのが「人間関係」の134人（全回答者に対して12%、参加経験者に対して52%）であり、「新たな参加者による活性化」など、人との関係に関わる事項が重要と見られている。
- ・その他、「発表機会」、「他団体との交流」など、発表、交流の機会の充実、「施設」、「交通の便」など施設の内容と立地に関する事項、参加者の時間的、経済的余裕などが挙げられている。

【その他意見（抜粋）】

- ・個人に任せる

問 15 気に入っている、又は他の人にも勧めたいと思う市の施設（3つまで）

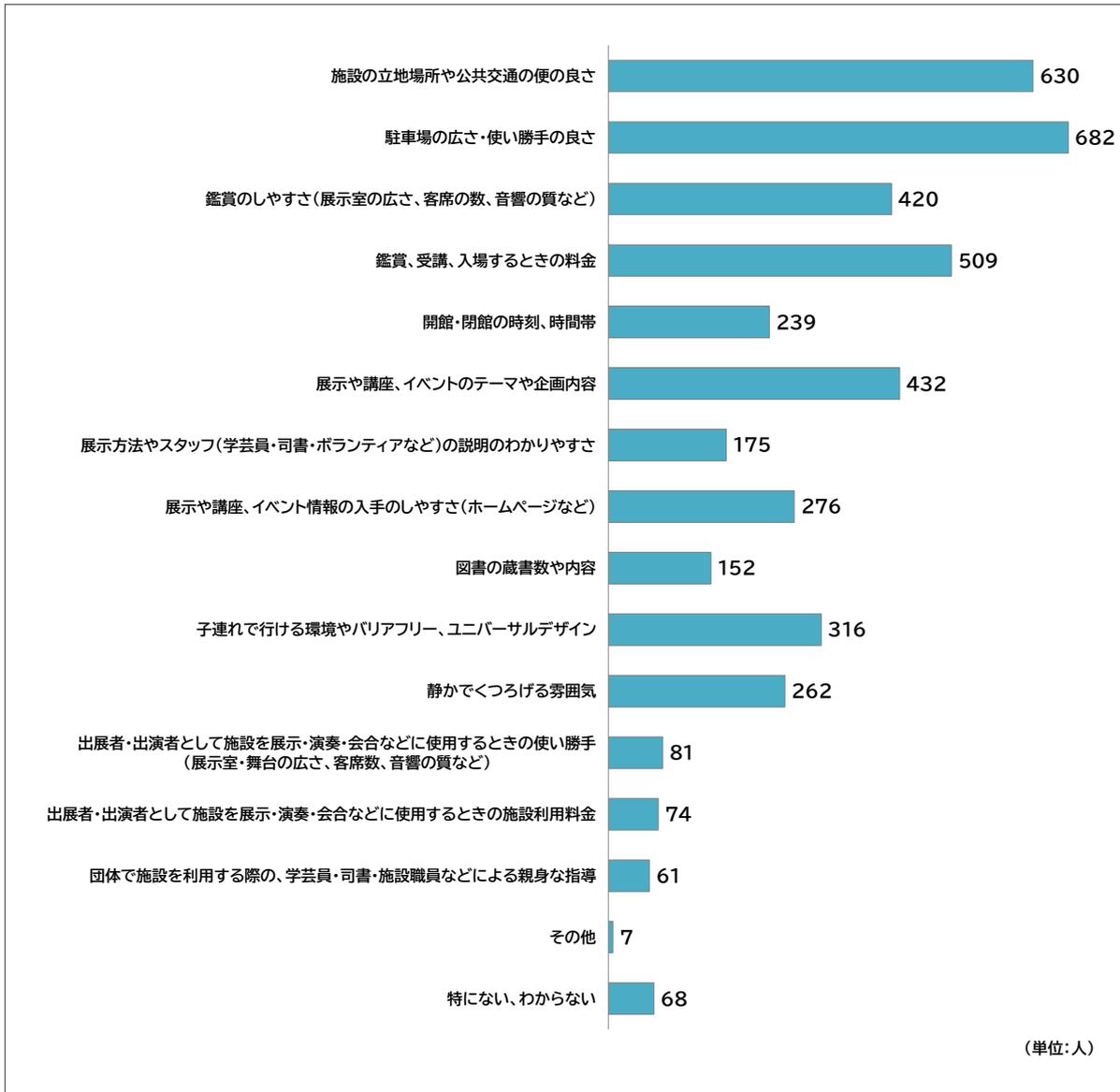


- ・人気が高い施設としては、デンパーク 647 人（58%）とアンフォーレ 597 人（53%）が挙げられる。
- ・これに次いで安城市歴史博物館 269 人（24%）文化センター 262 人（23%）丈山苑 243 人（22%）が並んでいる。
- ・歴史博物館と隣接する安城市民ギャラリーや、文化センターと近接する市民会館はどちらも支持率が低く、隣接・近接する施設間でも施設によって市民の評価が分かれている。

【その他意見（抜粋）】

- ・東祥アリーナ ・子育て支援センター ・安祥閣 ・南吉の下宿先 ・市民交流センター

問 16 歴史、文化・芸術施設を利用する際、重要だと思うこと（複数回答）



- ・最も支持の高い事項は「駐車場」の682人（61%）並びに「立地場所・公共交通の便」の630人（56%）であり、自家用車利用、公共交通利用に関わらず交通の便に関する事項が重要と考えられている。
- ・これに次いで「料金」の509人（46%）が挙げられ、安価に文化芸術に触れるニーズが重要とされる。
- ・「テーマ・企画内容」のソフト面での質や、「鑑賞のしやすさ」「バリアフリー」「くつろげる雰囲気」など、ハード面の質、さらに、「情報の入手のしやすさ」も重要な事項とされている。

【その他意見（抜粋）】

- ・面白さ ・子供が興味をわくこと ・インスタグラム映えるかどうか ・子どもと一緒に楽しめる企画のものが安城市にない
- ・スタッフの人柄と使う側、借りる側のマナー ・ちらしなどの周知方法の改善 ・HP への掲載が少ない

③ 自由記述欄（抜粋）

【歴史分野に関する主な意見】

- ・桜井棒の手や桜井凧、三河万歳などの伝統文化が素晴らしい。（市外からの転入者としての視点でも素晴らしい）もっと歴史についてアピールすべき。
- ・明治用水以前は荒れ地であり、尾張地方の他の地域と比べて歴史的蓄積が乏しい、という事実を認めたくえで、安城の文化のよいところを認め、今を生きることが重要。
- ・繊維業、日本デンマーク関連施設などの近代遺産について、取壊し前に見学や勉強ができる機会を。
- ・歴史博物館での展覧会への評価（手頃な料金・展示物・説明員・音声ガイド・体験）。
- ・学校教育の場で地域の歴史、文化をもっと教え、安城市を好きになってもらえるように。
- ・安城の歴史はあまり知らないの、これから知っていきたくて思いました。
- ・歴史博物館のイベントにちよくちよく参加させてもらっています。説明員の方のお話しがうまく、楽しみにしています。サークルにも入りたくて思っています。
- ・せっかく城跡や古墳など歴史があるのだからもう少し活かせるような何かイベントや企画、もしくは知識として多くの人に知ってもらって興味を持ってもらえるといいと思います。

【芸術分野に関する主な意見】

- ・JR 安城駅から徒歩圏内にサルビアホール、文化センターホール、図書館が存在して立地条件が良いので、3拠点を中心に音楽・文化祭を開催したら歩行者が往来して飲食店にも活気が出る。岡崎市などを参考に。
- ・インスタレーションアートなどは子どもも興味を持ちやすいので、現代アートも積極的に企画を望む。障害者アート、街なかアートのもの（近江八幡市の事例）も望む。
- ・幅広い年代が参加しやすいよう、講座などの開催曜日の設定を望む。
- ・ハンディを持つ人、子育て世代も参加しやすく。託児サービスがあれば子育て世代の息抜きになる。また、子育てブランク以後に復帰しやすくする工夫を。
- ・イベントやサークル活動情報など見やすく検索しやすく、主催者からの掲載依頼もしやすくなど広報、情報交換の充実を求める。特に活動事例の紹介が（岡崎市などと比べて）少ない。
- ・サイクリングロードやあんくるバスなどの公共交通機関で利用しやすく、ファミリー世代への駐車場の充実も必要。
- ・継続利用の団体が多く、新規では施設の予約がとりづらい。
- ・文化や芸術的なイベントに対して積極的に助成や支援をして欲しい。質の良いイベントには施設を自由に安く使わせて欲しい。
- ・参加してみたいが、人付き合いなどが面倒で障壁を感じる。関係者以外でも気楽に立ち寄り、参加できるような展示、サークル活動を望む。
- ・文化芸術は個人の感性や思想によって受け止め方が異なるという点をどうコントロールするかが課題。

【その他意見】

- ・今回のアンケートで歴史、文化芸術に興味を持った。シニア世代としてボランティアなどに参加したくなった。
- ・どういった団体がいつ、どこで活動しているかよく分からない。
- ・幼い頃から生まれ故郷で祭囃子を演奏し、大太鼓と笛が担当でした。結婚を機に安城市に移り住み、住んでいる町内でもお囃子をやっていることを知りました。興味はあるのですが、祭への参加を強制されそう、練習頻度や昔から住んでみえる方々との人間関係など、気になることが多く、参加は難しいかなというのが今の考えです。

3 ヒアリング調査の概要

文化芸術関係団体・個人ヒアリング記録

3-1 ヒアリング対象

日時	ヒアリング先
2020/2/ 2 (日)	安城音楽協会
	安城市民会館指定管理者
2020/2/ 9 (日)	桜井町下谷棒の手保存会
2020/2/11 (火)	堀内町のまつり囃子保存会
	書家(個人)
2020/2/12 (水)	安城ふるさとガイドの会
2020/2/14 (金)	楽学古文書会
	創作和太鼓演奏団体代表(個人)
2020/2/15 (土)	市民演劇祭出演団体
	安城の三河万歳保存会
2020/2/22 (土)	安城文化協会
2020/2/27 (木)	身体障害者福祉協会
2020/7/10 (金)	安城学園高等学校(弦楽部・吹奏楽部・合唱部・美術部・演劇部・箏曲部)

3-2 ヒアリング概要

① 安城音楽協会

【活動の現状と課題】

- ・会員は市内在住の30～60代が中心、会長は70代。女性が8割を占める。
- ・会員は音大出身もしくはそれに準じて演奏活動やレッスン活動をしている人がほとんど。アマチュアの演奏会は協会主催コンサートにはやや敷居が高いと思う。
- ・演奏家を派遣するプロデュース的業務を行うほか、プロ演奏家と一般聴衆の中間層にあたるアマチュアの参加機会もついている。
- ・会員の高齢化は切実な問題であり、若い人材の入会を促すために、音楽大学へも呼びかけをしたいが、現状ではつてがない。教え子が音大へ進学し、協会で活動するなど世代の循環が生まれるといいが、また、子育て世代が参加するサークルに託児サービスがあり、それはいい取り組みと思う。
- ・協会離れの要因として、協会に所属しなくてもコンサートはでき、今は自分で簡単にチラシも作成できるので、コンサートを開く敷居が低くなり、結果として協会入会のメリットが薄れている。
- ・協会のメリットとしては、自分の楽器以外とのコラボレーションの機会は貴重。それはピアノ教師の立場としてメリットになる。また、ボランティアの場(病院など)にアクセスしやすい。こういったメリットを会員拡大に活かしたい。

【市内の音楽活動の動向】

- ・「子ども音楽フェスタ」は今回3回目。過去2回はアンフォーレで開催。協会もオーディションの審査員として参加している。子どものバックで大人、家族も参加しており、会を重ねて演奏のレベルも上がっている。若い人のバンドの発表の場として盛り上げたい。「音楽のあるまちづくり」を目指す動きがあり、今秋、「Anjo 音楽のある一日」を計画中。協会も参加の方向で検討している。
- ・アウトリーチで精神的には得るものも多いが、「演奏にはお金がかかる」という意識が市民の中にあまりなく、経済

的自立を妨げる要因となっている。

【施設や運営への要望】

- ・会場の問題。楽器のある会場が少なく、昭林公民館かマツバホールくらい。市民会館はキャパシティが大きすぎ。300～500席がちょうどいい。
- ・舞台運営と演奏家二重奏のマッチングが課題ではないか。

② 安城市民会館指定管理者

【文化芸術行政のあり方】

- ・市民がいかに良質な文化芸術に触れられるかが重要で、触れたことによる刺激、特に若い世代が受けるショックは非常に大きいと思う。愛知県はまだしばらく子ども人口も増加するので、子どもの体験充実は重要。
- ・作品だけでなく、人（アーティスト）に触れることが、生きた文化として重要であり、「大人の本気」に触れる機会をアウトリーチなど含め充実すべき。
- ・文化芸術振興は数値では表せないものであり、経済原理とは異なる。長いスパンで考えることも重要。
- ・障害者の鑑賞機会をもっと増えることが望ましい。福祉に対する本市の取組みは高く評価されるべきと思うが、鑑賞体験は乏しい。

【文化芸術行政のシステム】

- ・愛知県の公文協や「地域創造」のような専門家集団の意見を聞くことは有効ではないか。
- ・「指定管理をウォッチするシステム」かつ「動きやすいシステム」であるような行政システムの持続性が求められる。また、文化振興課と生涯学習課が一体となったシステムも必要。

【地域性に応じた企画】

- ・例えば展覧会で、巡回展の共通パッケージとして質の高いものを誘致すると合わせ、市の学芸員がその土地の作家の作品を見せるなど、地域性を生かしたキュレーションがあるといい。
- ・市内でも地域によって公演の売れ行きに大きな差がある場合がある。地域ごとの社会課題や特色に即し、どうやって劇場に来てもらうか、それぞれ企画があってもいいのではないか。

【人の関わりを大切に】

- ・劇場は「ハレの場」であり、舞台とお客さんがつながっている、ということが重要。また、ある事業に関わってくれた人が他の事業にも参加するなど、「人の関わり」を大切にしていきたい。
- ・マスを対象とする営利的なイベントと、ホール主催の文化芸術事業は別物と考えるべき。
- ・「すばらしい」と感じた、その次の段階を用意したい。最終的には、「ここに住んでよかった」という人を増やしたい。

【若い世代の参加について】

- ・市民吹奏楽団は若い団員が多く、いいモデルだと思う。また、吹奏楽フェスティバルは、小中高校生にとって年齢の近い先輩に接するいい接点になっている一方、部活動ガイドラインができて、参加困難な学校も生じている。

【今後のハードウェアの設計について】

- ・500～600席規模の劇場がこれから重要となってくるのではないか。
- ・文化センターは、楽屋の配置など使いにくい設計になっている。今後計画するホールがもしあれば、設計時点で使いやすさを考慮すべきと思う。

③ 桜井町下谷棒の手保存会

【活動状況】

- ・季節的な活動であり、練習はお盆過ぎからスタート、10月に神社の祭礼がある。週3回午後7～9時に練習。中2、中3は毎日練習あり。
- ・参加人数は大人5名、中学生6名、小学生（2～6年）28名。子ども会とは別の活動だが、連絡網は子ども会のものを利用している。
- ・教える側はスタッフ的には今の人員でちょうどいい。最低一人は指導者が必要。
- ・他地域の団体との交流は行っている。

【子どもの参加促進が課題】

- ・一時期は50名の参加があったが、その後減少し、現在は横ばい状態。参加率は減少している。
- ・参加は男子のみ。昔は男のみで婿養子は参加できないといった因習があった。
- ・参加動機は「子どもがやりたい」、「親がやらせたい」それぞれケースあり。
- ・小中学生は、友達ができて喋ることができるのが楽しみ。他の部活をやりながら参加している。友達がいる、ということが入会の動機になった。
- ・小学校卒業で一区切りという意識があり、中学に上がると参加者が減る。また、子どもの人材は、お囃子と奪い合いになっている。
- ・ウォークラリー、高校の文化祭、総合学習などの機会を活用して中高生の参加を促進できないか。また、中高生の参加促進の策として、公的な証明（内申書に記載など）ができないか。格式をもっと上げて、きちんとした免状制度、授与式のような形も必要ではないか。
- ・子どもの参加の障害として、保護者が役員を嫌がるケースがある。保護者の送迎が必要で、家庭の負担にもなる。また、塾通いのため参加できないという家庭も多い。
- ・これまで続けてきた動機、参加のきっかけとして、同級生、仲間がいて会えること、義理人情に厚く、いい思い出がある。（30代）
- ・惹きつけられる魅力として、「型」のかっこよさがある。小学校低学年では型にそって棒を振り回しているが、高学年から中学生になってくると、型のよさがわかってくる。指導者も、型が持つ意味を教えている。安城の棒の手の型は他地域と比べて特殊。
- ・仲間内でもっと話し合える機会が増えるといい。卒業後も同窓会のような形で会えたらいいのではないか。

【発表の場の確保・知名度向上】

- ・発表の場をもっと欲しい。年間を通して大人であれば発表は可能。子どもも、上級生であれば参加可能と思われる。
- ・市民にもっと参加してもらいたい。そのためにも、情報発信をもっと必要で、まず人に知ってもらい、知名度を高めることが重要。

【練習環境】

- ・練習場所が住宅地内であり、音や明かりなどについて、近隣住民に気をつけている。広場が昔より狭くなった、グラウンドの減少、雨天時に練習できない、照明が暗いなどの問題がある。体育館は床が棒で傷つくためNG。道具の保管庫が必要など。
- ・地元で練習をやることに意義がある。
- ・入学式、卒業式で披露する機会があるといい。とにかく目に触れることが重要。

【その他】

- ・経済的には、参加者が特に大きな出費を迫られる状況ではないが、謝礼金はプールしており、個々の指導者への還元はできていない。子どもの衣装代は積立金で充当。もし資金にゆとりがあれば、交通費、お菓子代、役員への謝礼、物品購入などに充てる。

④ 堀内町まつり囃子保存会

【現状】

- ・保存会に入会していることを前提に、希望者が参加している。古くからの地元住民と新たな転入者の内訳は不明。
- ・小学生は3年～6年生が15人ほど参加。小6までは続ける子が多い。中学生も、好きな子は続けてくれている。
- ・練習は12回（土日×6回）。19～20時は子ども、20～21時は成人。
- ・子ども囃子連があり、大人の囃子連が笛、太鼓を指導。リーダーは順番に務める。（50代が多い）

【参加拡大への課題】

- ・祭りは地域の絆づくりに有効と考えられるが、町内会に入会していることが前提なので、町外から人を呼ぶことはできないというデメリットも感じられる。イベント仕立てにして集客力をアップするなど、幅広く人が集まれる機会づくりはできないだろうか。
- ・子どもの人口が減少し、参加も少なくなっていることから、できれば学校の協力を仰ぎたい。

⑤ 書家（個人）

【活動状況】

- ・中部大で講師（講習、実技）をしている。
- ・書道を習う人としては、中高年世代の女性が最も多い。また、参加するきっかけとして、市民ギャラリーの書展を見て、というケースがあるので、展示と鑑賞機会の充実は出会いの場として重要。

【後継者育成、参加拡大の障壁】

- ・課題は後継者育成であるが、一般に、書家は流派意識が強い。日展の受賞実績など、文化団体の序列や権威意識も強く、一般市民が入会しにくい状況も見られる。

【他分野とのコラボレーションの可能性】

- ・上記のような背景があって、各団体間のコラボレーションがしにくいという問題もある一方、他分野とのコラボレーションの可能性はあると思う。安城高校では、書道パフォーマンスをやっており、音楽（ピアノ、ヴァイオリン）とのコラボレーションもしている。

⑥ 安城ふるさとガイドの会

【活動状況】

- ・月に1回例会あり。他市のふるさとガイドの状況視察を行うなどの活動をしている。

【ガイド情報の共有】

- ・興味を引くガイドのためには、歴史にまつわるエピソードの情報が欲しい。個人の資源を引き継ぐことは重要であり、上の人々の知識を共有するため、データベース化が行われつつある。

- ・ガイドの会の横のつながりや、市内の異種団体との連携が課題。

【魅力づくり】

- ・ガイドポイントをマッピング化し、エリアごとに関心を持ってもらうようにしたい。
- ・本證寺については、繰り返し頻繁に来たくなる動機付けが課題と思われる。
- ・現状、子どもへの案内がない。紙芝居を作りたい。また、若い世代向け対応や、データベースを活用した解説の工夫として、タブレットの活用も検討課題。
- ・多世代の交流にも意義はあるが、コミュニケーションのしやすさという点では、年齢の近い人に説明する方が好ましいと感じる場合もある。

【ガイドの人材確保】

- ・応募状況は、去年は応募 20 人、参加は 15 人。今年は百数十人が応募した。
- ・募集にはチラシだけでは情報不足で参加に踏み切りにくい。新人をリクルートするチャンスをもっと増やすべき。市の広報も含め、もっと取組みを露出しないと人材の確保や参加者の拡大は難しいのではないかと。
- ・以前、座学としてボランティア養成講座が開かれていたが、あまり面白い内容ではなかった。
- ・ガイドをやりたいが人間関係がうまくいか不安、という人も少なくない。顔を直接合わせて、雰囲気があると溶け込みやすいのではないかと。先に人間関係があって、事に及んでいく、という形の参加がいいのではないかと。年代の近い人がアプローチすることが望ましい。
- ・先輩・後輩間でギャップが生ずることが少なくない。フレッシュマンを教育する人材が必要。

【その他課題】

- ・市からの補助金はなく、ガイドにお願いしても謝礼金はない。一般企業からの協賛金のような形の経済支援を考えてもいいのではないかと。また、その一方、お金を頂くのであれば、もっとガイドのレベルを上げていくべきとも考えられる。

⑦ 楽学古文書会

【活動内容】

- ・2015 年 9 月、三島先生の「古文書を読む講座」がきっかけ。講座を知るきっかけとしては、市の広報。参加のきっかけとしては講座で誘われる、というパターンが多い。
- ・月 1 回活動。講座参加は 5、6 人＋随時参加。会員は高山先生含め 13 名（男性 8 名女性 5 名）市内居住者が 9 名、4 名は名古屋市など市外居住。50～60 代が中心で、80 代 2 名、ほか 40 代も参加。適正規模としては、15～20 人程度ではないかと考えている。

【地域固有の話題が豊富】

- ・本市内の古文書を題材にしている。地域の昔の「ローカルニュース」が分かるのが面白い。時代性、当時の生活様式などが分かる。（ガイドボランティアとのコラボレーションの可能性はないか？）

【参加のきっかけや発表機会】

- ・会員のほとんどは専門家ではない素人だが、初心者がいきなり入会するのではなく、三島先生の講座を受けたのち、三島先生が会を紹介してくれて入会、というパターンが多い。三州古文書の会はレベルが高く、スピードが早い、高山先生が初心者向けの会としてペース配分を考えてくれるため、レベルの違いはあまり気にならず、特に予習の必要に迫られることもない。いい雰囲気の活動になっている。

- ・他の会との横の交流は特になが、会員中4名は三州古文書の会にも参加している。
- ・安祥文化のさとまつりで口頭発表をしているが、発表の場があることで負担になるので、できればいい方がいい。

【歴史博物館について】

- ・歴史博物館の資料を使えるのはありがたい。歴史博物館に関していえば、もっとPRがあっいいのではないか。アンフォーレと比較して歴史博物館は露出が少ないのではないかと思う。

⑧ 創作和太鼓演奏団体代表（個人）

【活動の概要】

- ・2003年、「梵迦」（大人の集団）を始め、楽曲を提供してきた。「梵迦」研修生含め8人、「サンガ」（保育園で、もっと上を目指したい子が参加）が13人。全国大会に参加、全国で頑張っている子たちを見せたいと。きっかけはそれぞれ。親がプッシュ、サンガ、「梵迦」に憧れるという子もいると思う。
- ・練習は子どもたちで。子どもがリーダーとなって自主性を。親の目がないほうが、仲間意識で刺激し合いながら。親は基本見学しないようにしている。西尾、刈谷、阿久比。月3回練習。

【愛知県、本市の状況】

- ・本市には安祥太鼓含め、太鼓グループが13ある。安祥まつりやデンパークのイベントのために楽曲を提供している。市内のいろいろな祭りを見たが、となりの市から曲を持ってきている。明治用水ができて新しく集落ができたが、もともとお囃子がない訳で、隣の市にお願いしてお囃子を作ってもらっていた。せっかくなら安城オリジナルを、と思い安城3部作を作曲した。本市内のグループを巻き込んでやりたかったので、「ほだら」を立ち上げた。
- ・全国的に見ると、愛知県はレベルが高い。アマチュアの層が厚く、プロ集団も愛知県には多い。
- ・中学の部活動は東山中のみなので、もう少し広がっていったらいい。中高生は、母体があれば戻ってくる可能性はある。やりたくなったらいつでも戻ってこいと言っている。忙しくなるし、大学は県外ということもあるので。
- ・安城のことを知ってもらいたいと思って太鼓グループ「ほだら」のために楽曲を書いた。桜井地区に「チャラボコ」（まつり囃子）が残っているというの知られていない。安祥で合戦があったということも知られていない。デンパークのでんでん囃子も、相撲甚句も間に入れて本市の著名人を知ってもらったり、相撲甚句を知る機会になっている。
- ・桜井凧揚げには安城南高校の和太鼓部が参加している。プロとアマチュア関係なく好きな人が一緒にやることを趣旨とした活動もある。市内のグループが交流して一緒に活動できるといい。

【国際化】

- ・国際コンペティションが初めて日本で開催される。欧米、アジアをはじめ和太鼓の文化ができており、日本へのリスペクトとして和太鼓に熱い視線がある。楽器を叩くことがパフォーマンスになっているというのは類をみないジャンル。ワークショップの需要も高い。

【広がり、連携】

- ・こども園から続ける子はいが、中高生は部活をやっているせいか少ない。発表会を見に来て入る子はい。安城で「サンガ」をもっと大きくしたいので「サンガジュニア」の募集を始めたところ。頑張りたいというきっかけを豊富にできるように、市としても発信してほしい。知名度が上がりつつある「サンガ」なので、それをキープするためにもジュニアが必要。
- ・安祥太鼓は中心部でやっている。他のグループと連携できたらいい。
- ・子どもたちが育ち、市内のいろいろなところへ教えに行くようになれば夢のようである。これから寺もやっていかなけ

ればならないが、青少年育成とか、文化の発信ということにお寺も拠点のひとつになればと思う。

【市への要望は、情報発信、運営サポート、会場確保、足の確保】

- ・情報発信は、ちらし、SNSによる。太鼓をやっている人には伝わるが、やったことがない人には広がりにくい。
- ・「一歩踏み出す」ことへの公共支援は重要。自分で新たに企画書を作る必要があるので、負担がある。成人式に「ほだら」を呼んでくれたのは、若い世代での知名度を上げる点でありがたい。
- ・公共施設の使用料が安いとチャリティ募金コンサートなどもしやすくなるので望ましい。
- ・公共交通でどの地域からも子どもが集まりやすい拠点は重要。市の中心部でできる場所の提供があると非常にありがたい。アンフォーレでは演奏できた。デンパークでも和太鼓フェスを企画してくれている。市民が企画してくれているが、できれば市も主催、後援など「公共」としてサポートしてくれると嬉しい。

⑨ 市民演劇祭出演団体

【活動内容】

- ・「各駅停車」の活動は高校（安城学園）時代から。当初 10 年間は先生も参加していた。現在は 15 人で活動。いろいろな出身者が参加している。平均年齢は 40 歳ぐらい。小学生団員 1 人。基本的には大人の演劇。
- ・練習は青少年の家で週 1 回、20～22 時。22 時まで会場を利用できるのは助かっている。
- ・「さうすぽー」は 3 人（+たまに息子さんが参加）で活動。
- ・「演劇を楽しもう」という講座をやっており、発声練習や体を動かすレッスンをしている。公演リクエストに関しては、10～15 分の寸劇であれば対応可能で、作品のストックもある。

【活動の持続へ向けた課題】

- ・役者の絶対数は少ないが、劇団の掛け持ちが多いこともあって横のつながりはしっかりしている。
- ・活動の持続性は、参加者の生活環境に左右される。高校生からの問い合わせは多く、進学、就職に関する相談もあり、持続できる環境ができるかどうか重要。
- ・新しい人材の受け入れは負担になるので自分たちで終わってもいい、という思いもあるが、本市の演劇環境をよりよくしていくことは賛成。

【市民演劇祭について】

- ・市民演劇祭の意義は大きい。これだけしっかりと続いている歴史は素晴らしい。公演の経済的負担が少なく、人も誘いやすい。市民演劇祭が、劇団同士がつながるきっかけとなっている。
- ・講座で劇をつくり、市民演劇祭で発表、という形態が定着。
- ・市民演劇祭は 40 周年であるので、区切りの年に何かできるといい。

【今後の可能性】

- ・演劇は、音楽、美術、ダンスなどさまざまな分野の「総合芸術」であり、それぞれが得意分野を活かすことができるのがいいところ。つくり上げていく過程も楽しい。ただし、舞台をつくりあげるための準備に時間がかかる。
- ・横のつながりはあり、役者のトレードは多い。1 本の話を用いた劇団が演じるなどの形でコラボできるのではないかな。
- ・交流センター、自宅の離れで練習している。大道具小道具は自宅にストックしている。練習場を借りるのにお金がかかる。また、補助金制度は会計上の面倒さがネックとなっている。
- ・演劇講座はステップアップが大変であるが、一歩踏み出す機会、きっかけとなるフィールドがあるといい。

- ・情報発信には、いろいろなアプローチが可能と思う。YouTube（ユーチューブ）の活用などの可能性も大きい。

⑩ 安城の三河万歳保存会

【活動内容】

- ・農林高校の郷土芸能同好会を経て保存会に参加。
- ・保存会は20～30人で活動。月2回、榎前町の練習場で練習している。女性の参加が多い。

【参加の拡大へ向けた課題】

- ・高校卒業後、どうすれば保存会に入ってもらえるかが課題。農林高のOBが差し入れをしてくれるなど、興味を持っている人もいて、そういう人を取込んでいきたい。
- ・誘われて入るなど、（校長の声かけもあった）参加のきっかけは必ずしも自発的なものではないケースも多い。やったことがない人でも興味がある人はいると思うので、体験の機会があるといいのではないかな。
- ・保存会のことがあまり知られておらず、どんな練習をしているのか、どれぐらい活動しているのか、ということは入ってから知ったので、情報発信は重要と思う。
- ・本来は各地域ごとにこういう活動があるといい。
- ・尾張万歳は若い世代が多く参加しているので、参考になるかもしれない。

【達成感を感じる時】

- ・言葉が理解できない、何をやっているかわからない、という状態から、動きが合ってくると達成感がある。小、中学校でやったとき、楽しさが伝わったときが嬉しい。老人ホームや子どもの前で公演する機会があり、喜んでもらったことが嬉しい。

【学校との連携】

- ・保存会と学校のつながりは重要。農林高校から中学校へ出向いて指導するというのもいい。教えることで学ぶことも多い。ただし、学校のクラブ活動の限界として、時間が限られていることが挙げられる。
- ・小中学校では、児童生徒の移動手段がネックとなる場合が見られる。

【他団体との交流について】

- ・指導者の横のつながりは今のところ特にない。他地域との交流はいいことと思う反面、型の違い、リズム、節回しの違いがあるので戸惑うケースもある。

⑪ 安城文化協会

【活動の状況】

- ・令和元年7月時点で79団体、1,457人。参加人数は減少傾向。年齢層が高く、60、70代以上が多くを占める。性別では女性6割。
- ・シルバーカレッジの参加資格は65歳以上なので、40、50代が参加できる機会があまりない。
- ・会費個人1,500円、グループは1,500円×人数。市から補助金がある。
- ・6月に文教祭。秋に芸術祭があり、市でやっていたものを協会に委託している。

【参加率低下の要因と協会参加のメリットについて】

- ・若い世代が文化協会に入らないのはメリットがないから。以前は活動、発表の場所として貴重だったが、今は活動も多様化しており、メリットが見出しにくい。

- ・終戦直後の文化芸術に飢えていた時代ののち、昭和 40 年代ごろには「手習い」の文化が浸透、地域や職域単位で活発な活動をしてきたが、今は趣味が合う人の個人的集まりへと変化している。インターネット、スマホの普及により情報の入手が容易になり、集まって学ぶ必要がなくなっている。
- ・会場確保が一番大変なので、文化協会が公民館を優先的に予約できるなど、メリットが出せればいい。公民館が「育てる」という意識で、定期的な活動を保証できるといい。
- ・公民館などの講座の講師を文化協会に依頼してもらえると、協会加盟のメリットになるのではないかな。

【活性化へ向けた課題】

- ・かつての校区公民館が地域の手習いの場であり、市の職員、指導者ともに人材が豊富だったが、公民館が自主グループの情報を持たなくなっており、社会教育主事も自分ごとでなくなってしまった。文化協会と市の社会教育で、市職員の力量もかつてはあったので、現状の縦割り行政を改善していくといい。
- ・海外からの旅行者や留学、ホームステイをする若い世代は日本の伝統文化に興味を持つ。海外へ留学する日本人にもっと伝統文化を教えることが必要ではないかな。

【学校教育との連携】

- ・かつて、学校の「放課後子どもプラン」で、地域の人が子どもたちに教えるという計画があったが、学校の先生の負担が大きいことがネックとなって教育委員会が動かなかった。今は働き方改革で、よりその傾向にあると思う。地域の公民館が学校の代わりに支える体制が必要。学校は平等の原則があるので、地域で支える場合にはそれが課題となる。桜井中学はうまくいっている事例。
- ・スポーツの分野を中心に、勝ち進むことが動機となり、参加者も指導者も熱心だが、その前の段階のことも重要ではないかな。その一方、努力の成果としての顕彰も、きっかけとしては必要。仲間がいることも重要。

【文化芸術振興のあり方について】

- ・例えば音楽でいえば、吹奏楽（西洋音楽）だけでなく、伝統文化としての邦楽もきちんと位置付け、必要であればやるべき。参加率が少ないから支援しない、というのでは文化芸術の振興と言えない。
- ・一般に邦楽の魅力は実感しにくいけど、和太鼓は体が動き、わかりやすかつこいい。子どもたちの表情がいいし、障害のある子も楽しんで参加できている。よりよく魅力を伝えることが可能ではないかな。
- ・文化芸術は、趣味で楽しむ人と、生活の糧とする職業芸術家の 2 面性がある、切り分けて考えるべき。公民館では営業的な活動ができないのがネックのひとつと考えられるが、社会教育法では禁止していない。地元の先生（芸術家）が活躍できる場を確保するべき。

⑫ 身体障害者福祉協会

【活動の状況】

- ・部会として視覚障害、聴覚障害などに分かれて活動している。
- ・行事は総務部が統括している。体育系ではグラウンドゴルフ、ボウリング、ポッチャカロリング、ダーツなど。文化系では料理、陶芸、カラオケ、社会見学など。作品展も開催している。
- ・状況としては若い人の参加が減っており、高齢化している。若い世代は「ぬくもりの家」「ワークス」などで活動している。一方高齢者は「ぬくもりの里」の利用が多い。協会に入会するか否かで恩恵には違いはない。
- ・3 月第 1 土日に総合福祉センターで作品展。俳句、写真、陶芸、手芸、工芸など。出品者は 40 名ほどで減少傾向にある。参加者減少の要因としては、足の問題と、行事（講座など）が重なる問題がある。
- ・総合福祉センターの利用は平日が多い。大きな大会や会議は土日。

【課題は、交通と情報のアクセス、連携】

- ・総合福祉センターの公共交通の便が悪く、来たくても来づらい。あんくるバスの接続の再検討をお願いしたい。
- ・何かやってみたくても、何があるか情報が少ない。どうアピールするか？何らかのアクションを起こさないと伝わらないという気がする。社協だよりや市の広報はどうか。
- ・情報伝達のルートとして、「手をつなぐ親の会」などの組織もあるが、個人情報の問題もある。
- ・全体的にクローズドな活動になりがちなので、いろいろな活動の横のつながりができるといい。「連携」のパイプづくりのために、行政からの呼びかけも必要なのではないか。

【楽しく出かける動機付けを】

- ・家にこもってテレビを見ているだけでは、認知症にもなりやすい。活動の場があることで、家から出て人と接すること。それによって頭を使うし、自分で手を動かす機会も増える。「楽しく出かける」動機付けが重要。

⑬ 安城学園高等学校

【学校の特色】

- ・女子教育として先端的な存在。前校長が安城市交響楽団創立に尽力した。

【コロナ下での活動状況】

- ・（弦楽）リモートで合奏。各自スマホで録音したものを先生が編集した。全員集まる合奏から、部屋を分けた分奏に。コンクールがテープ審査になった。
- ・（合唱）フェイスシールドを使っている。マスクより歌いやすいし、表情も分かりやすいという利点がある。
- ・（演劇）夏の高校生大会が中止、冬の地区合同発表会も開催できるか未確定。感染防止対策としては、部室の換気に気をつけている。

【平常時の活動状況】

- ・（全般）部員数は毎年あまり変動がない。「働き方改革」の影響として、朝練習がなくなったなどがある。
- ・（全般）卒業後の活動継続状況については、特に多くの部員が継続している状況ではないが、音楽大学や声優専門学校を志望する、個人として音楽を続けるなどの選択もある。
- ・（全般）鑑賞活動については、いろいろな演技を見た方がいいと先生も推奨している。公演情報などを見て、無料なら行くが、自分でお金を払ってというのは難しい。部員揃って行くという感じではない。
- ・（演劇）体験入学で演技を中学生に見せている。ワークショップに参加しており、プロの先生が教えてくれる機会もある。卒業生も含め、外部の劇団との接点は今のところない。外部の交流としては、毎年2月に市民演劇祭に参加するほか、創作ミュージカルへの参加など。
- ・（美術）部員同士で、一緒にワイワイやっているのが楽しい。安美展（安城美術展）や岡美展（岡崎美術展）への出品を目標にやっている人もいる。画材（絵具）が結構高価なので、これが自由に使えるのなら、続けていきたい。
- ・（弦楽）私学連合音楽祭を通じて県内の他校と交流。市民交響楽団の演奏会や第九演奏会に参加する部員もいる。通常の活動は基本的に学校内だが、系列の大学で合同練習することもある。
- ・（箏曲）箏曲を行う上で、楽器（琴）と指導者（先生）の確保がポイント。現在は、学校の備品の楽器を使っている。先輩の中には、以前、教えに来ていた先生のところ、卒業後、弟子入りした方もいる。
- ・（吹奏楽）吹奏楽部は現在120人。みんな楽器が好きで入部した。特に知った先輩がいると心強い。一人ではできないので、仲良くやっていくコミュニケーション能力が重要。定期演奏会や学校訪問などが発表の場とな

っている。将来、結婚や子育てを経ながらも続けていきたい。ただ、大きな音が出るので、活動場所が限定される。

【入部のきっかけや自分の変化】

- ・入部のきっかけは、弦楽・箏曲については、「見てかっこいい」、合唱については、「歌いたい」という気持ちから。演劇では、「声優になりたい」「緩そう、楽しそう」「人前に立つのが好き」など。また、中学で演劇部がなかったので、やってみたいという動機もある。
- ・演劇部に入部したことで、ドラマの見方が変わったり、自分も演技がうまくなると充実感があるなどの変化があった。
- ・全国大会に出ると、自信になる。
- ・卒業後も続け、ライフワークとして取組んでいきたい。（ほぼ全てのヒアリング参加者）

【その他】

- ・他のサークルに入る場合、そこがどのような団体か気になる。例えば、インターネットなどで練習風景が見られたら、心理的な「壁」が随分和らぐ。
- ・市広報などの紙媒体はほとんど見ない。Twitter（ツイッター）やInstagram（インスタグラム）で情報を得るので、これらがないと情報が届かない。
- ・同じ年代の知り合いや先輩がいると入りやすい。

4 公共施設における文化芸術団体の活動状況

4-1 調査対象

文化振興課（安祥文化のさと活動団体：歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター） 回答：148 団体

* 安城文化協会は市民ギャラリーに含む

生涯学習課（安城市文化センター／中央公民館・地区公民館 10 館・青少年の家） 回答：364 団体

スポーツ課（安城市体育館） 回答：3 団体

学校教育課（市内小学校・中学校の部活動） 回答：小学校 86 団体 中学校 31 団体

市民協働課（市民交流センター） 回答：33 団体

アンフォーレ課（図書情報館／アンフォーレ） 回答：19 団体

安城市社会福祉協議会（総合福祉センター・地区福祉センター7 館） 回答：90 団体

高齢福祉課（各老人クラブ） 回答：97 団体

その他 回答：3 団体

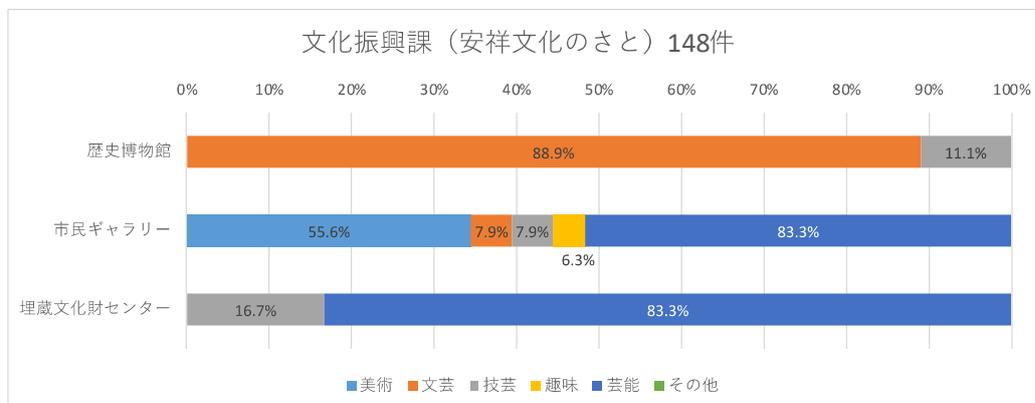
合計 874 団体（アンケートに回答いただいた団体）

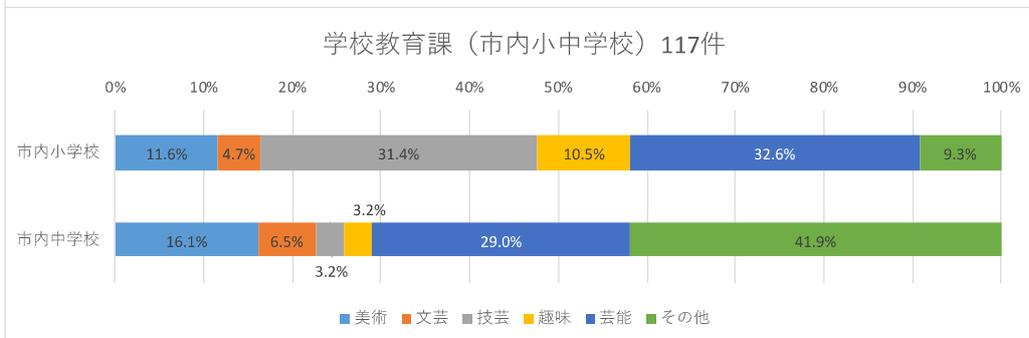
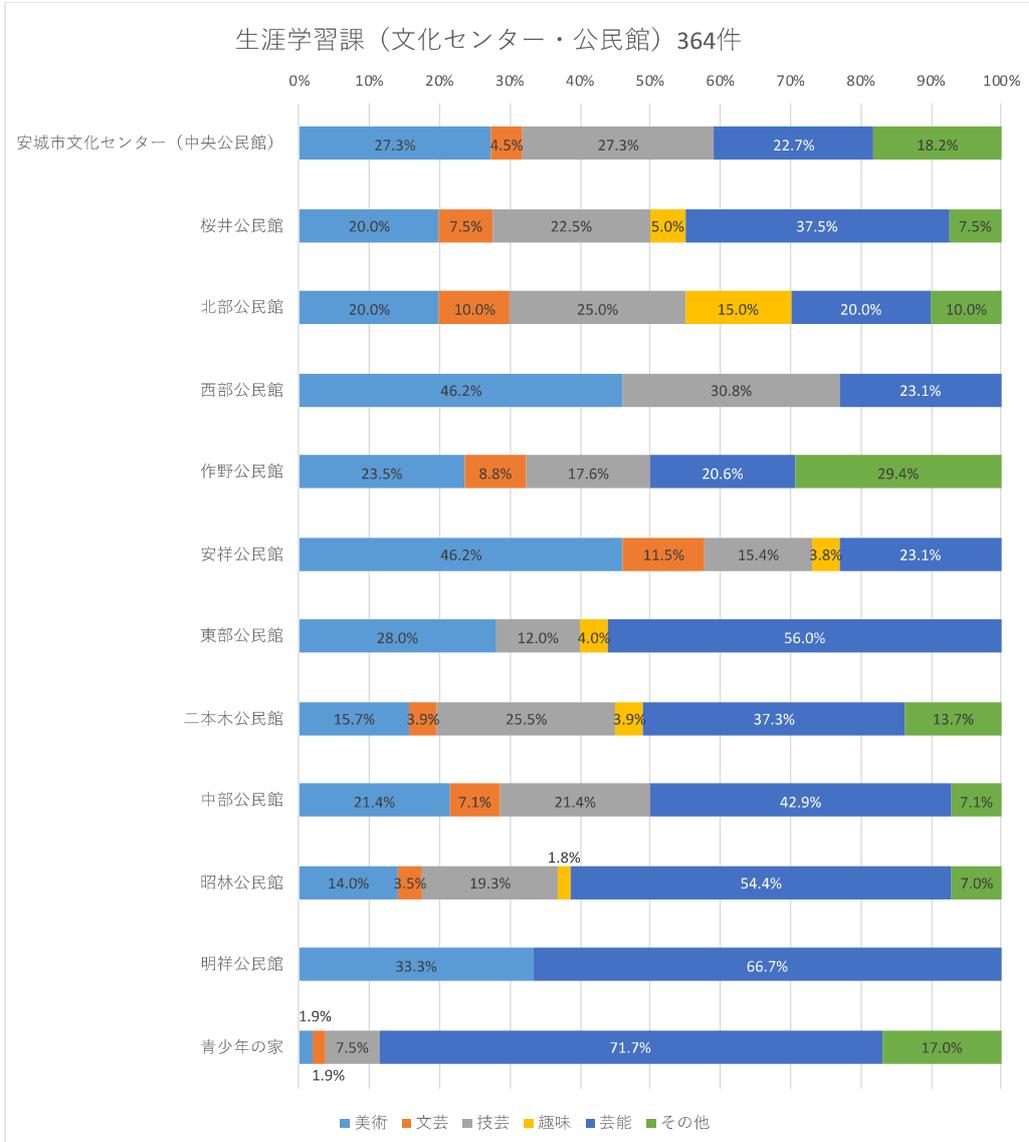
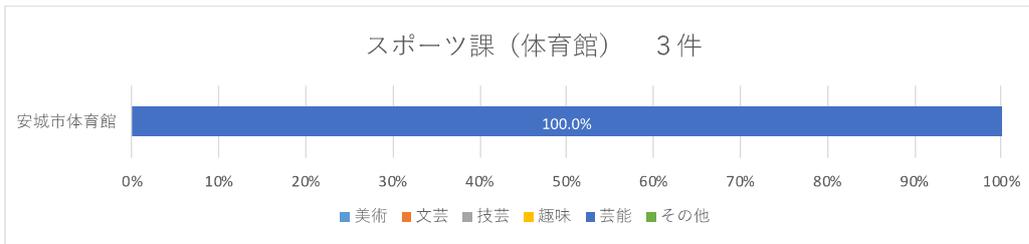
なお、文化芸術活動の分類基準は、次のとおりとした。

分類	例
美術	絵画、書、写真、陶芸など
文芸	俳句、短歌、詩吟、郷土研究、歴史研究
技芸	生け花、茶道、盆栽、工作、着付け
趣味	山野草、落語、囲碁、将棋、麻雀
芸能	舞踊、音楽、ダンス
その他	語学、料理、総合イベント

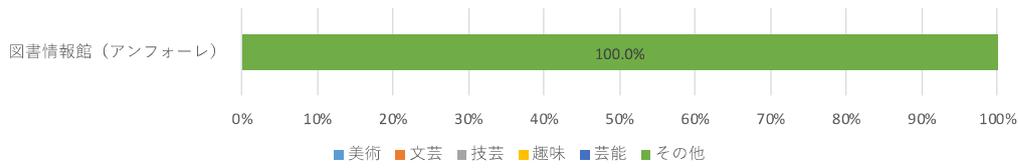
4-2 調査結果の概要

① 所管課・施設別の自主団体の分野別活動状況

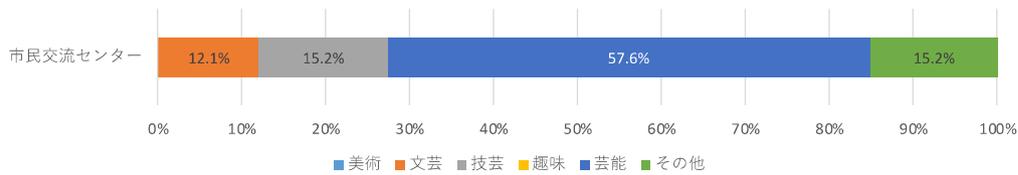




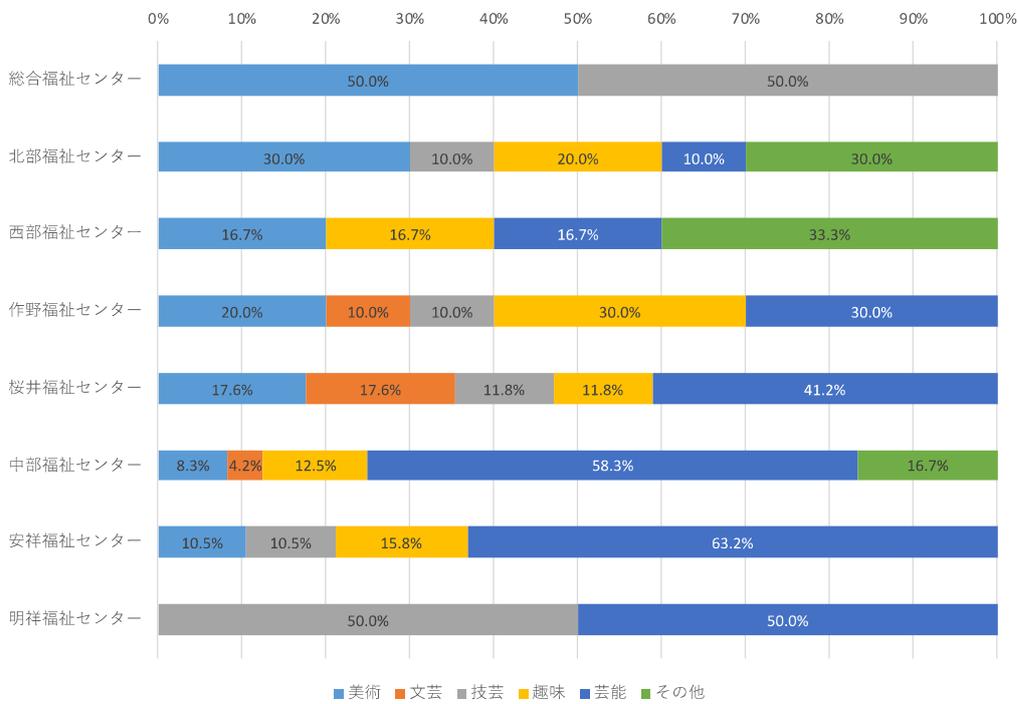
アンフォーレ課（図書情報館（アンフォーレ）） 19件



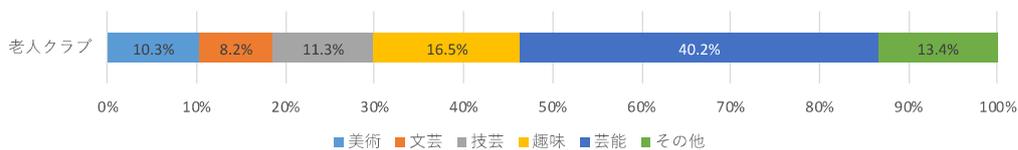
市民協働課（市民交流センター） 33件

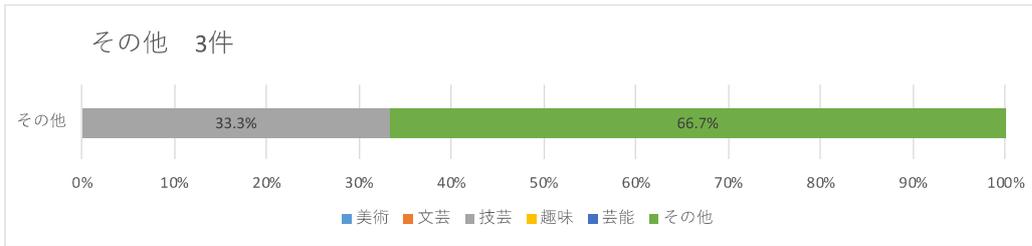


社会福祉課（安城市社会福祉協議会） 90件

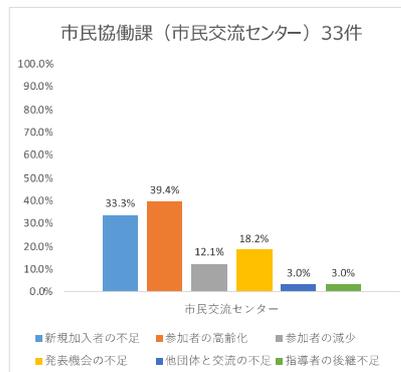
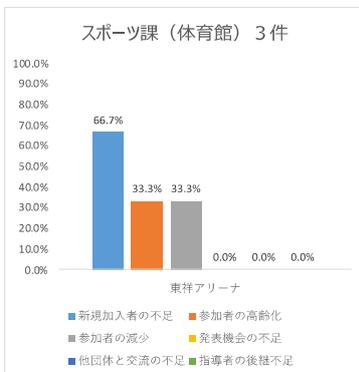
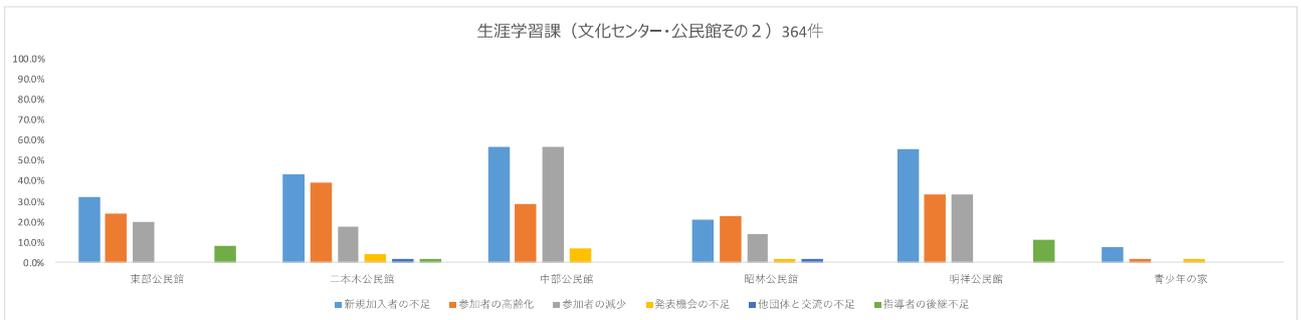
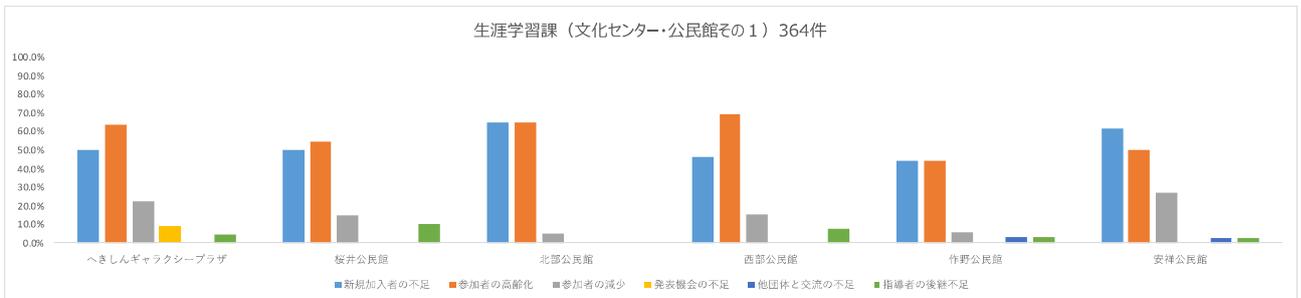
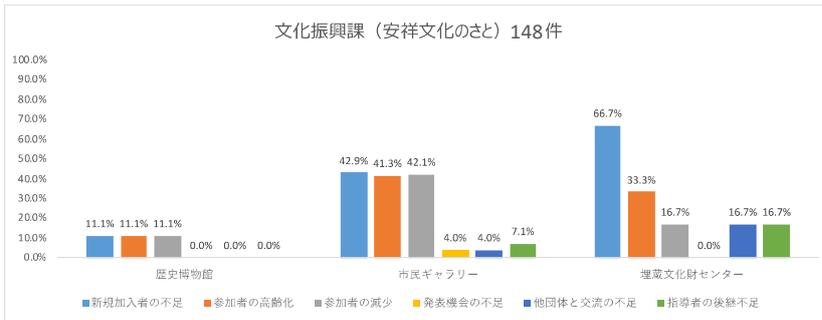


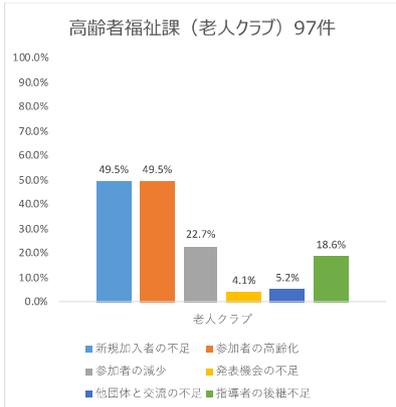
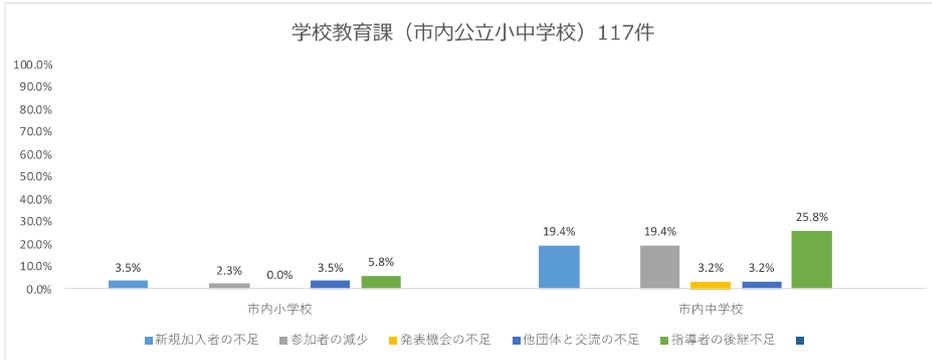
高齢福祉課（老人クラブ） 97件





② 所管課・施設別の自主団体の活動の悩み・問題点





5 本市域所在の指定・登録文化財一覧

① 指定文化財

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
1	国	絵画	絹本着色 善光寺如来絵伝	本證寺	四幅	鎌倉時代	大正 7年 4月 8日
2	国	絵画	絹本着色 聖徳太子絵伝	本證寺	十幅	鎌倉時代	大正 7年 4月 8日
3	県	絵画	絹本着色 法然上人絵伝	本證寺	三幅付断片	南北朝時代	昭和 47年 5月 31日
4	市	絵画	絹本着色 光明本尊図	西蓮寺	一幅	南北朝時代	昭和 36年 10月 1日
5	市	絵画	絹本着色 真宗十祖像	西蓮寺	一幅	南北朝時代	昭和 36年 10月 1日
6	市	絵画	絹本着色 真宗八祖像	西蓮寺	一幅	南北朝時代	昭和 36年 10月 1日
7	市	絵画	紙本着色 日本地図 六曲屏風	個人	一隻	江戸時代	昭和 40年 10月 1日
8	県	絵画	南蛮屏風	西蓮寺	一双	江戸時代	昭和 42年 8月 28日
9	市	絵画	絹本着色 聖徳太子像	本證寺	一幅	室町時代	昭和 40年 11月 3日
10	市	絵画	紙本着色 親鸞聖人像	西蓮寺	一幅	江戸時代	昭和 36年 10月 1日
11	市	絵画	絹本着色 蓮如上人像 附裏書	円光寺	一幅	室町時代	昭和 58年 7月 20日
12	市	絵画	絹本着色 顕如上人像	法行寺	一幅	江戸時代	平成 1年 11月 3日
13	市	絵画	絹本着色 證如上人像	円光寺	一幅	安土桃山時代	平成 1年 11月 3日
14	市	絵画	絹本着色 覚如上人像	西方寺	一幅	安土桃山時代	昭和 38年 10月 1日
15	市	絵画	絹本着色 福釜松平三代像	宝泉院	三幅	江戸時代	昭和 38年 10月 1日
16	市	絵画	紙本着色 石川丈山像	個人	一幅	江戸時代	昭和 47年 11月 14日
17	市	絵画	絹本着色 阿弥陀三尊来迎図	崇福寺	一幅	室町時代	昭和 36年 10月 1日
18	市	絵画	紙本着色 釈迦三尊像	崇福寺	一幅		昭和 38年 10月 1日
19	市	絵画	絹本着色 阿弥陀三尊像	西蓮寺	一幅		昭和 59年 7月 20日
20	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	本證寺	一幅	室町時代	昭和 40年 11月 3日
21	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	円光寺	一幅	室町時代	昭和 40年 11月 3日
22	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	松韻寺	一幅	室町時代	昭和 40年 11月 3日
23	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	法行寺	一幅	室町時代	昭和 40年 11月 3日
24	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	明法寺	一幅	室町時代	昭和 45年 3月 16日
25	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	念空寺	一幅	室町時代	昭和 47年 11月 14日
26	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	蓮泉寺	一幅	室町時代	昭和 47年 11月 14日
27	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	誓願寺	一幅	室町時代	昭和 47年 11月 14日
28	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	西心寺	一幅	室町時代	昭和 47年 11月 14日
29	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	円光寺	一幅	室町時代	昭和 58年 7月 20日
30	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	浄玄寺	一幅	室町時代	昭和 59年 7月 20日
31	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	願力寺	一幅	室町時代	昭和 59年 7月 20日
32	市	絵画	紙本着色 三十六詩仙画帖	個人	一帖	江戸時代	昭和 47年 11月 14日
33	市	絵画	絹本着色 親鸞聖人像	本證寺	一幅	室町時代	平成 10年 2月 27日
34	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	西岸寺	一幅	室町時代	平成 11年 11月 3日
35	市	絵画	絹本着色 親鸞聖人像	法行寺	一幅	江戸時代	平成 13年 11月 3日
36	市	絵画	絹本着色 聖徳太子像	法行寺	一幅	江戸時代	平成 13年 11月 3日
37	市	絵画	絹本着色 真宗七高僧像	法行寺	一幅	江戸時代	平成 13年 11月 3日
38	市	絵画	神光寺薬師如来再興縁起	神光寺	一卷	江戸時代	平成 17年 11月 3日
39	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	空臨寺	一幅	室町時代	平成 23年 11月 3日
40	市	絵画	絹本着色 教如上人像	空臨寺	一幅	江戸時代	平成 23年 11月 3日
41	市	絵画	絹本着色 方便法身尊像	空臨寺	一幅	室町時代	平成 25年 1月 11日
42	県	彫刻	木造 薬師如来坐像	印内総代	一軀	平安時代	昭和 33年 6月 21日
43	市	彫刻	木造 薬師如来坐像	高棚町内会	一軀	室町時代	昭和 38年 10月 1日
44	市	彫刻	木造 薬師如来立像	神光寺	一軀		昭和 40年 5月 1日

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
45	市	彫刻	木造 聖徳太子立像	本證寺	一軀	鎌倉時代	昭和49年 2月13日
46	市	彫刻	木造 順正坐像	円光寺	一軀	江戸時代	平成 5年11月 3日
47	県	彫刻	木造 慶円上人坐像一軀 附台座天板一面	本證寺	一軀	南北朝時代	平成13年 8月24日
48	市	彫刻	木造 阿弥陀如来立像	本證寺	一軀	鎌倉時代	平成 4年11月 3日
49	市	彫刻	木造 阿弥陀如来坐像	菩提寺	一軀	室町時代	平成 5年11月 3日
50	市	彫刻	木造 如意輪観音菩薩坐像	個人	一軀	江戸時代	平成 4年 3月20日
51	市	彫刻	木造 十二神将立像	神光寺	十二軀	江戸時代	平成 4年11月 3日
52	市	彫刻	木造 聖徳太子馬上像	松韻寺	一軀	江戸時代	平成 3年11月 3日
53	市	彫刻	木造 不動明王立像	熊野神社	一軀	室町時代	昭和38年10月 1日
54	市	彫刻	木造 釈迦如来・多宝如来坐像 附厨子	妙教寺	二軀	室町時代	昭和51年 4月13日
55	市	彫刻	木造 伐折羅大将立像	長福寺	一軀	江戸時代	昭和59年11月30日
56	市	彫刻	銅造 如来立像	菩提寺	一軀	統一新羅時代	平成 6年12月 8日
57	市	彫刻	木造 飛天像	神光寺	一軀	平安時代後期	平成30年 2月15日
58	県	工芸品	垣篇文組椀	本證寺	四口	安土桃山時代	昭和33年 6月21日
59	市	工芸品	孔雀文磬	本證寺	一面	鎌倉時代	昭和40年11月 3日
60	市	工芸品	鱧口	慈光院	一口	室町時代	昭和51年 4月13日
61	市	工芸品	鴛香炉	本證寺	一合	江戸時代	昭和40年11月 3日
62	市	工芸品	三葉葵紋象牙香箱	本證寺	一合	江戸時代	昭和40年11月 3日
63	市	工芸品	栗紋様香合	本證寺	一合	江戸時代	昭和40年11月 3日
64	市	工芸品	短刀 銘 来国光	本證寺	一口	鎌倉時代	昭和40年11月 3日
65	市	工芸品	太刀 銘 兼定	桜井神社	一口	室町時代	昭和40年11月 3日
66	市	工芸品	薬師如来懸仏	熊野神社	一箇	鎌倉時代	昭和38年10月 1日
67	市	工芸品	古瓢	個人	一口	江戸時代	昭和47年11月14日
68	市	書跡	紙本墨書 六字名号	西方寺	一幅	室町時代	昭和38年10月 1日
69	市	書跡	紙本墨書 六字名号	本證寺	一幅	室町時代	昭和40年11月 3日
70	市	書跡	紙本墨書 六字名号	浄玄寺	一幅	室町時代	昭和59年 7月20日
71	市	書跡	紙本墨書 六字名号	念空寺	三幅	室町時代	昭和47年11月14日
72	市	書跡	紙本墨書 六字名号	願力寺	一幅	室町時代	昭和59年 7月20日
73	市	書跡	紙本墨書 六字名号	法行寺	一幅	室町時代	平成 1年11月 3日
74	市	書跡	紙本墨書 第十八願文・願成就文	本證寺	二幅	室町時代	昭和40年11月 3日
75	市	書跡	絹本着色 九字名号	念空寺	一幅	南北朝時代	昭和47年11月14日
76	市	書跡	丈山百五十年祭寄書	本龍寺	一幅	江戸時代	昭和40年10月 1日
77	市	書跡	石川丈山書跡	個人	十五点	江戸時代	昭和47年11月14日
78	市	書跡	紙本墨書 六字名号 附旧軸木	松韻寺	一幅	室町時代	平成 9年 1月10日
79	市	書跡	紙本墨書 十字名号	本證寺	一幅	室町時代	平成10年 2月27日
80	市	書跡	紙本墨書 六字名号	蓮泉寺	一幅	室町時代	平成21年11月 6日
81	市	書跡	紙本墨書 九字名号	蓮泉寺	一幅	室町時代	平成21年11月 6日
82	市	書跡	絹本着色 九字名号	空臨寺	一幅	南北朝時代	平成23年11月 3日
83	市	書跡	紙本墨書 六字名号	空臨寺	一幅	室町時代	平成23年11月 3日
84	市	書跡	紙本墨書 教行信証文	空臨寺	二幅	室町時代	平成23年11月 3日
85	市	典籍	御伝鈔	本證寺	二帖	室町時代	昭和40年11月 3日
86	市	典籍	教行信証	本證寺	二帖	南北朝時代	昭和49年 2月13日
87	市	典籍	御文	念空寺	二卷	室町時代	昭和47年11月14日
88	市	典籍	紙本墨書 皇太子聖徳奉讃	本證寺	一幅	鎌倉時代	平成10年 2月27日
89	市	典籍	紙本墨書 五帖御文	本證寺	五冊	室町時代	平成10年 2月27日
90	市	典籍	紙本墨書 五帖御文	本證寺	四冊	室町時代	平成10年 2月27日
91	市	古文書	ささめ村田方帳・畑方帳	篠目町内会	二冊	安土桃山時代	昭和36年10月 1日
92	市	古文書	大岡村検地帳	大岡白山神社	一冊	江戸時代	昭和36年10月 1日

安城市文化振興計画

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
93	市	古文書	大岡村御縄打歩測御帳	大岡白山神社	一冊	安土桃山時代	昭和 36 年 10 月 1 日
94	市	古文書	野寺村検地帳	本證寺	三冊	江戸時代	昭和 40 年 11 月 3 日
95	市	古文書	赤松村検地帳	赤松町内会	一冊	江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
96	市	古文書	古井村検地帳	古井町内会	十冊	江戸時代	昭和 53 年 2 月 20 日
97	市	古文書	野寺絵図	本證寺	一幅	江戸時代	昭和 40 年 11 月 3 日
98	市	古文書	安城村関係絵図	西尾町内会	六鋪	江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
99	市	古文書	高棚村絵図	高棚町内会	一鋪	江戸時代	昭和 45 年 3 月 16 日
100	市	古文書	芦池絵図	高棚町内会	一鋪	江戸時代	昭和 45 年 3 月 16 日
101	市	古文書	東端村・根崎村絵図	東端町内会	一鋪	江戸時代	昭和 52 年 11 月 8 日
102	市	古文書	根崎村・東端村絵図・附関係文書	個人	五鋪	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
103	市	古文書	鷺蔵池裁許絵図	里町町内会	一鋪	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
104	市	古文書	桜井村絵図 附関係文書六通	個人	一鋪	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
105	市	古文書	里村絵図	里町町内会	一鋪	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
106	市	古文書	松平氏関係文書	西蓮寺	十八通	室町～江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
107	市	古文書	斎藤五郎兵衛家文書	個人	1,684 点	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
108	市	古文書	菩提寺文書	菩提寺	579 点	江戸時代	平成 5 年 11 月 3 日
109	市	古文書	家康黒印免許状	本證寺	一通	安土桃山時代	昭和 40 年 11 月 3 日
110	市	古文書	教如上人書状	本證寺	一幅	安土桃山時代	昭和 40 年 11 月 3 日
111	市	古文書	本證寺門徒連判状	本證寺	一卷	室町時代	昭和 40 年 11 月 3 日
112	市	古文書	和算免許状及び和算書	個人	一卷・十三冊	江戸時代	昭和 40 年 11 月 3 日
113	市	古文書	伝源頼朝安堵状	本證寺	一幅		昭和 40 年 11 月 3 日
114	市	古文書	桜井神社文書	桜井神社	62 点	江戸時代	平成 13 年 11 月 3 日
115	市	古文書	柿碓村検地帳	柿碓町内会	一冊	江戸時代	平成 18 年 11 月 3 日
116	市	古文書	今川義元感状	個人	一幅	室町時代	平成 20 年 11 月 3 日
117	市	古文書	東端・和泉・根崎三か村絵図	安城市	一鋪	江戸時代	平成 20 年 11 月 3 日
118	市	古文書	安城村絵図	安城市	一鋪	江戸時代	平成 20 年 11 月 3 日
119	市	古文書	幽囚日誌	誓願寺	一冊	明治時代	平成 30 年 2 月 15 日
120	県	考古資料	桜皮巻き小形壺形土器	安城市	一口	弥生時代終末期	昭和 56 年 11 月 20 日
121	市	考古資料	内行花文鏡	秋葉神社	一面	古墳時代前期	昭和 40 年 11 月 3 日
122	市	考古資料	塔之元出土遺物	個人	一口	弥生時代後期	昭和 40 年 11 月 3 日
123	市	考古資料	和泉北本郷古墳出土品	和泉八幡神社	一式	古墳時代中期	昭和 55 年 7 月 21 日
124	市	考古資料	寺領廃寺出土遺物	安城市	15 点	奈良～平安時代	昭和 40 年 11 月 3 日
125	市	考古資料	寺領廃寺出土遺物	松韻寺	55 点	奈良～鎌倉時代	昭和 40 年 11 月 3 日
126	市	考古資料	古井遺跡出土遺物	安城市	14 点	弥生時代後期	昭和 36 年 10 月 1 日
127	市	考古資料	古井遺跡出土遺物	個人	10 点	弥生時代後期	昭和 40 年 11 月 3 日
128	市	考古資料	箕輪出土石器類	個人	168 点	先土器時代	昭和 40 年 10 月 1 日
129	市	考古資料	堀内貝塚出土遺物	安城市	一式	縄文時代晩期	昭和 40 年 11 月 3 日
130	市	考古資料	北浦遺跡出土遺物	上条町内会	二口	鎌倉時代	平成 14 年 11 月 3 日
131	市	考古資料	彼岸田遺跡出土横櫛	安城市	1 点	古墳時代中期	平成 22 年 11 月 5 日
132	市	考古資料	下懸遺跡出土木簡	安城市	1 点	奈良時代	平成 22 年 11 月 5 日
133	市	考古資料	惣作遺跡出土木簡	安城市	2 点	奈良時代	平成 26 年 1 月 10 日
134	国	考古資料	人面文壺型土器 附線刻土器片	安城市	一箇・二十点	弥生時代終末期	平成 28 年 8 月 17 日
135	県	建造物	本證寺本堂	本證寺	一棟	江戸時代	昭和 49 年 4 月 10 日
136	市	建造物	桜井神社本殿 附棟札	桜井神社	一棟	室町時代	昭和 40 年 11 月 3 日
137	市	建造物	神谷家住宅 母屋	個人	一棟	江戸時代	昭和 61 年 9 月 5 日
138	市	建造物	学甫堂 附石燈籠・つくばい	個人	一棟	江戸時代	昭和 47 年 11 月 14 日
139	市	建造物	伝内藤重清・清長墓碑	誓願寺	二基	室町時代	昭和 40 年 11 月 3 日
140	市	建造物	都築弥厚茶室	西蓮寺	一棟	江戸時代	昭和 40 年 10 月 1 日

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
141	市	建造物	本證寺伽藍 鼓楼・鐘楼・経蔵・裏門	本證寺	四棟	江戸時代	平成 17 年 11 月 3 日
142	市	建造物	大岡白山神社本殿	大岡白山神社	一棟	室町時代	平成 19 年 11 月 3 日
143	市	建造物	旧明治郵便局局舎及び官舎	個人	二棟	明治時代	平成 19 年 11 月 3 日
144	市	建造物	東端八剱神社本殿 附覆殿一棟・棟札一枚・板札一枚	東端八剱神社	一棟	江戸時代	平成 27 年 1 月 9 日
145	市	建造物	根崎八幡神社本殿 附柿板三枚	根崎八幡神社	一棟	江戸時代	平成 27 年 1 月 9 日
146	市	建造物	伝真宗墓碑	誓願寺	二基	室町時代	昭和 40 年 11 月 3 日
147	市	有形民俗文化財	八剱神社の絵馬	和泉八剱神社	六面	江戸時代	平成 1 年 11 月 3 日
148	市	有形民俗文化財	神明社・小河天神社合殿の絵馬	神明社・ 小河天神社合殿	一面	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
149	市	有形民俗文化財	大岡白山神社の絵馬	大岡白山神社	三面	江戸時代	平成 3 年 11 月 3 日
150	市	有形民俗文化財	桜井神社の絵馬	桜井神社	一面	江戸時代	平成 1 年 11 月 3 日
151	県	有形民俗文化財	算額	桜井神社	二面	江戸時代	昭和 42 年 10 月 30 日
152	市	有形民俗文化財	安城市場神	東尾町内会	二基		昭和 40 年 10 月 1 日
153	市	有形民俗文化財	相撲土俵四本柱	福釜町内会	四本	江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
154	市	有形民俗文化財	算額	桜井神社	一面	江戸時代	平成 9 年 1 月 10 日
155	市	有形民俗文化財	野辺送り蓮台並びに前卓	長因寺	二基	江戸時代	平成 11 年 11 月 3 日
156	市	有形民俗文化財	八幡社の絵馬	東尾八幡社奉賛会	七面	江戸時代	平成 12 年 11 月 3 日
157	市	有形民俗文化財	尾崎町のからくり人形	尾崎町内会	一式	江戸時代	平成 15 年 11 月 3 日
158	市	有形民俗文化財	文字書きからくり人形	安城市	一式	江戸時代	平成 22 年 11 月 5 日
159	市	有形民俗文化財	根崎八幡神社の絵馬及び奉納額	根崎八幡神社	三面	江戸時代	平成 26 年 1 月 10 日
160	市	有形民俗文化財	相撲土俵四本柱	神光寺	一本	江戸時代後期	平成 30 年 2 月 15 日
161	市	有形民俗文化財	相撲土俵四本柱	若一王子社	三本	江戸時代後期	平成 30 年 2 月 15 日
162	県	無形民俗文化財	桜井町の棒の手	桜井町下谷棒の手 保存会			昭和 39 年 3 月 23 日
163	国	無形民俗文化財	三河万歳	安城の三河万歳 保存会他			平成 7 年 12 月 26 日
164	市	無形民俗文化財	桜井神社のまつり囃子	桜井神社祭囃子 保存会他			昭和 53 年 11 月 20 日
165	市	無形民俗文化財	不乗森神社の湯立神事	不乗森神社			平成 4 年 11 月 3 日
166	国	史跡	二子古墳	桜井神社・安城市	4,152.61㎡	古墳時代前期	昭和 2 年 10 月 26 日
167	国	史跡	姫小川古墳	浅間神社	1,955.65㎡	古墳時代前期	昭和 2 年 10 月 26 日
	国	史跡	姫小川古墳	安城市	1,195.33㎡	古墳時代前期	平成 24 年 9 月 19 日
168	市	史跡	碧海山古墳	個人	396㎡	古墳時代前期	昭和 40 年 11 月 3 日
169	市	史跡	塚越古墳	願力寺	492㎡	古墳時代前期	昭和 36 年 10 月 1 日
170	市	史跡	堀内古墳	堀内天神社	783㎡	古墳時代前期	昭和 40 年 11 月 3 日
171	市	史跡	獅子塚古墳	秋葉神社	2,194㎡	古墳時代前期	昭和 40 年 11 月 3 日
172	市	史跡	姫塚古墳	浅間神社	677㎡	古墳時代	昭和 40 年 11 月 3 日
	市	史跡	姫塚古墳	個人	221.3㎡	古墳時代	平成 20 年 11 月 3 日
173	市	史跡	姫地下塚	個人	62.05㎡	中世	昭和 40 年 11 月 3 日
174	市	史跡	堀内貝塚	安城市	1,467.76㎡	縄文時代晩期	昭和 40 年 11 月 3 日
175	市	史跡	東端貝塚	八剱神社	4,669.25㎡	縄文時代晩期	昭和 45 年 3 月 16 日
176	市	史跡	安祥城址	大乘寺他		室町時代	昭和 36 年 10 月 1 日
177	市	史跡	安城古城址	若一王子社	813㎡	鎌倉時代	昭和 38 年 10 月 1 日
178	市	史跡	東端城址	個人他	6,231.39㎡	室町時代	昭和 38 年 10 月 1 日
179	市	史跡	山崎城址	神明社他	5,122㎡	室町時代	昭和 40 年 10 月 1 日
180	市	史跡	箕輪城址	光明寺	2,225㎡	室町時代	昭和 40 年 10 月 1 日
181	市	史跡	桜井城址	安城市	6,189.94㎡	室町時代	昭和 40 年 11 月 3 日
182	市	史跡	藤井城址	藤井総代	150㎡	室町時代	昭和 43 年 4 月 1 日
183	市	史跡	木戸城址	春日神社	7,086㎡	室町時代	昭和 49 年 2 月 13 日
184	市	史跡	高木氏発祥の地	安城市	22.68㎡	室町時代	昭和 40 年 10 月 1 日
185	市	史跡	保科正直邸址	正法寺	2,387㎡	安土桃山時代	昭和 40 年 10 月 1 日
186	市	史跡	安城陣屋跡	若一王子社	300.82㎡	江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日

安城市文化振興計画

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
187	市	史跡	西尾辨財天	若一王子社	103 ㎡		昭和 46 年 3 月 10 日
188	市	史跡	安祥毘沙門天	極楽寺他	1,586 ㎡		昭和 46 年 3 月 10 日
189	市	史跡	富士塚	株式会社 コロナワールド	58 ㎡	室町時代	昭和 36 年 10 月 1 日
190	市	史跡	本多忠高墓碑	大乘寺		江戸時代	昭和 36 年 10 月 1 日
191	市	史跡	護法有志の墓	蓮泉寺	184.78 ㎡	明治時代	昭和 40 年 11 月 3 日
192	市	史跡	藤の里伝承地	村高天神社	1.43 ㎡	江戸時代	昭和 40 年 11 月 3 日
193	市	史跡	柴田助太夫墓碑	永安寺		江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
194	市	史跡	中川寛右衛門墓碑	明法寺	9.25 ㎡	明治時代	昭和 43 年 4 月 1 日
195	市	史跡	大行日吉法印の墓	大行日吉法印 講中代表	19.89 ㎡	安土桃山時代	昭和 53 年 2 月 20 日
196	市	史跡	本多忠豊墓碑	大乘寺	95 ㎡	江戸時代	昭和 38 年 10 月 1 日
197	市	史跡	東条塚	安城市	195 ㎡	室町時代	昭和 36 年 10 月 1 日
198	市	史跡	桜井戸跡	安城市	120 ㎡		昭和 40 年 11 月 3 日
199	市	史跡	筒井泉跡	安城市	14.8 ㎡	室町時代	昭和 43 年 4 月 1 日
200	市	史跡	藤井戸跡	藤井総代	73 ㎡		平成 3 年 11 月 3 日
201	市	史跡	三河三白山・大岡白山神社	大岡白山神社	7,374 ㎡	室町～江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
202	市	史跡	三河三白山・上条白山媛神社	上条白山媛神社	6,254 ㎡	室町～江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
203	市	史跡	三河三白山・桜井神社	桜井神社	13,025.65 ㎡	室町～江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日
204	市	史跡	寺領廃寺跡	松韻寺・ 素盞鳴神社他	5,985 ㎡	奈良時代	昭和 40 年 11 月 3 日
205	市	史跡	別郷廃寺跡	市杵嶋姫神社	14.82 ㎡	奈良～平安時代	昭和 43 年 4 月 1 日
206	市	史跡	二夕子遺跡	安城市		弥生時代前期	昭和 40 年 11 月 3 日
207	市	史跡	亀塚遺跡	安城市		弥生時代中期	昭和 40 年 11 月 3 日
208	国	史跡	本證寺境内	本證寺他	37,454.49 ㎡	室町時代	平成 27 年 3 月 10 日
209	市	史跡	石川丈山邸址	安城市	1,483 ㎡	安土桃山時代	昭和 38 年 10 月 1 日
210	市	史跡	鎌倉街道及び花の滝伝承地	不乗森神社	23 ㎡		昭和 58 年 7 月 20 日
211	市	史跡	岩根城址	岩根総代	22,000 ㎡	鎌倉時代	平成 11 年 1 月 8 日
212	市	史跡	山伏塚及び野田家墓碑	個人	261 ㎡	江戸時代	平成 15 年 11 月 3 日
213	市	史跡	桜井町棒の手伝承地	個人	76.0 ㎡	安土桃山時代	平成 17 年 3 月 1 日
214	市	天然記念物	東海道のマツ並木	安城市	東海道一帯		昭和 45 年 3 月 16 日
215	市	天然記念物	桜井神社のクロマツ	桜井神社	桜井神社参道		昭和 49 年 2 月 13 日
216	県	天然記念物	永安寺の雲竜の松	永安寺	一樹		昭和 60 年 11 月 25 日
217	市	天然記念物	明法寺のイブキ	明法寺	一樹		昭和 50 年 3 月 13 日
218	県	天然記念物	本證寺のイブキ	本證寺	一樹		昭和 53 年 1 月 17 日
219	市	天然記念物	西蓮寺のイチョウ	西蓮寺	一樹		昭和 49 年 2 月 13 日
220	市	天然記念物	堀内の大イチョウ	個人	一樹		昭和 40 年 11 月 3 日
221	市	天然記念物	信照寺のシイ	信照寺	一樹		昭和 50 年 3 月 13 日
222	市	天然記念物	水月寺のシイ	西別所町内会	一樹		昭和 49 年 2 月 13 日
223	県	天然記念物	榎前のクロガネモチ	個人	一樹		昭和 53 年 1 月 17 日
224	市	天然記念物	村高の大クス	村高天神社	二樹		昭和 49 年 2 月 13 日
225	市	天然記念物	専超寺のケヤキ	専超寺	一樹		昭和 49 年 2 月 13 日
226	市	歴史資料	石川喜平測量具 附和算免許状・和算資料	明治川神社	一式	江戸時代	昭和 43 年 4 月 1 日

② 国登録文化財

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
1	登録	登録有形文化財	神谷家住宅座敷	個人	85 ㎡	明治前期 / 大正期増築	平成 20 年 5 月 7 日
2	登録	登録有形文化財	神谷家住宅奥座敷	個人	147 ㎡	明治末期	平成 20 年 5 月 7 日
3	登録	登録有形文化財	神谷家住宅左官部屋及び炭部屋	個人	232 ㎡	明治 38 年頃	平成 20 年 5 月 7 日

番号	指定区分	種別	名称	所有者	員数	時代	指定年月日
4	登録	登録有形文化財	神谷家住宅渡り	個人	23 ㎡	明治 38 年頃	平成 20 年 5 月 7 日
5	登録	登録有形文化財	神谷家住宅米蔵	個人	80 ㎡	明治中期	平成 20 年 5 月 7 日
6	登録	登録有形文化財	神谷家住宅雑穀蔵	個人	41 ㎡	明治中期	平成 20 年 5 月 7 日
7	登録	登録有形文化財	神谷家住宅奥の蔵	個人	39 ㎡	明治中期	平成 20 年 5 月 7 日
8	登録	登録有形文化財	神谷家住宅宝蔵	個人	50 ㎡	大正前期	平成 20 年 5 月 7 日
9	登録	登録有形文化財	神谷家住宅横屋	個人	41 ㎡	明治前期	平成 20 年 5 月 7 日
10	登録	登録有形文化財	神谷家住宅井戸屋形	個人	18 ㎡	明治後期／ 昭和前期増築	平成 20 年 5 月 7 日
11	登録	登録有形文化財	神谷家住宅釜屋及び物置	個人	13 ㎡	明治前期／ 昭和前期増築	平成 20 年 5 月 7 日
12	登録	登録有形文化財	神谷家住宅味噌蔵及び書庫	個人	40 ㎡	大正前期	平成 20 年 5 月 7 日
13	登録	登録有形文化財	神谷家住宅大工部屋及び奥和室	個人	61 ㎡	大正前期	平成 20 年 5 月 7 日
14	登録	登録有形文化財	神谷家住宅正門	個人	53 ㎡	明治 38 年頃	平成 20 年 5 月 7 日
15	登録	登録有形文化財	愛知県立安城農林高等学校正門門柱	愛知県	1 ㎡	明治 36 年	平成 29 年 3 月 10 日

安城市文化振興計画

2021年（令和3）3月31日

編集発行 安城市教育委員会 文化振興課

〒446-0026

愛知県安城市安城町城堀30番地

安城市歴史博物館内

電話 0566-77-4477

FAX 0566-77-6600